

2022年12月1日



月刊 もぐら通信

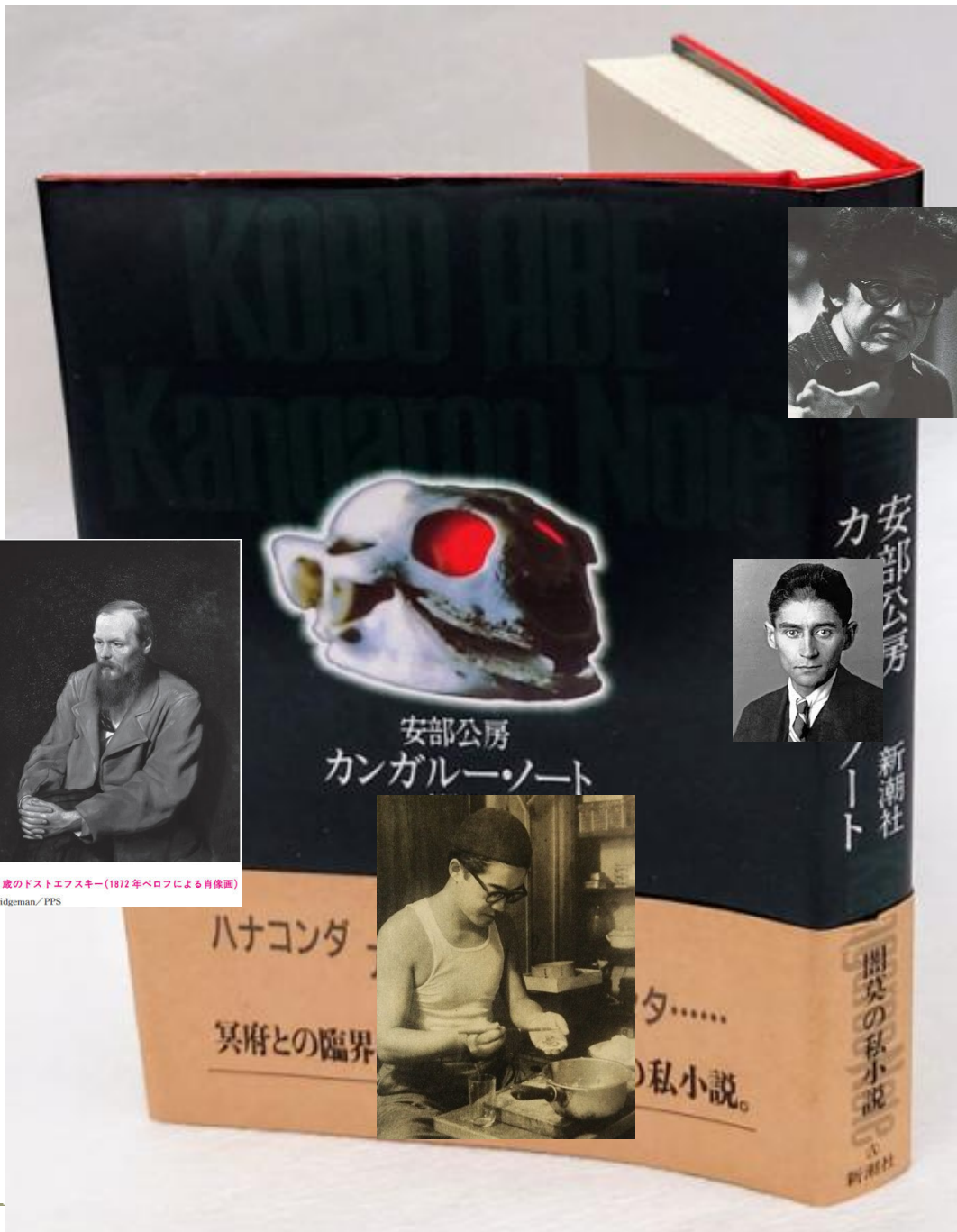
2025年12月1日 第164号 初版

<http://abekobosplace.blogspot.jp>

弱者への愛には、いつも殺意がこめられてゐる

あなたへ：
迷う事のない迷路を通つて
あなただけの番地に届きます

E-mail
EIYA.IWATA@GMAIL.COM



51歳のドストエフスキー(1872年ペロフによる肖像画)
Bridgeman/PPS

目次

- 1 目次…page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板…page 3
- 3 巻頭詩（49）明石の笛吹き男—或る日本の物語—：D.J.エンライト……page 1 3
- 4 コーボー・ベーシックス kobo basics（10）：サーカス3：大陸のサーカス……page 2 0
- 5 『都市への回路』論（19）：（4）音の領域 [聴覚の小説『密会』] / ②音楽の時間……page 2 6
- 6 もぐら文学賞合評会（第一回）：芸太作『弱さ』……page 3 5
- 7 日本一極国家論（続篇）：GAMECHANGE理論（13）：4.1.6 日本国家核ミサイル保有論4：4.1.6.1 核ミサイルをどの国家から調達するか/4.1.6.2 シン・非武装中立論……page 3 7
- 8 SFで思考するための本棚（12）：荒巻義雄論4：『カリフィヤの少年』英訳……page
- 9 私の本棚（48）：坂井信夫編集「倉田良成追悼集」を読む……page
- 10 サンチョ・パンサを求めて（24）：批評とは何か II……page 4 3
- 11 散文思索塾（1） 散文とは何か……page 5 1
- 12 ネット・モナド論（37）：民主主義の政治とは何か 2……page 6 3
- 13 カフカの箴言（11）：一個の林檎から得られる複数のものの見方の……page 6 7
- 14 ショーペンハウアーの箴言（5）：多くの場合、わたしたちにまづ最初に物事の価値を知らしめるのは……pag 6 8
- 15 糞尿と性愛の文学-生殖器・排泄器同一社会論仮説-（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/
1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉…page
- 16 高天原便り（11）：ユーコクの土と薩摩芋……page 7 0
- 17 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（37）：5.3 7 大祓への第一段落第一行には何が書いてあるのか：高天の原に……/5.3 8 真歴考/：……page 5 7
- 18 Topologyで日本の文化を解説する：内なる辺境シリーズ（12）：扇…page
- 19 東ドイツ回想記（6）：何故わたしは東ドイツに行つたのか 5…page 7 6



The best tweets of the month

Golden Mole
Prize

該当なし

Silver Mole
Prize

該当なし

The worst tweet of the month

くうかい@ku_kai4・Nov 13

Replying to

@macoto_y

なんと、そんな評価なんですね。

逆に日本で低くドイツで評価の高い日本人作家というのいいるのでしょうか？

安部公房もむしろ海外での評価が高かったという話を聞いたことがあります。

今月の他人の顔

ホッタタカシ@t_hotta・17h

そしてBS松竹東急で、11/24（木）に安部公房原作・脚本、勅使河原宏監督の映画『他人の顔』（1966）が改めて放送されるとのこと。

<https://www.shochiku-tokyu.co.jp/program/7742/>

ホッタタカシ@t_hotta・18h

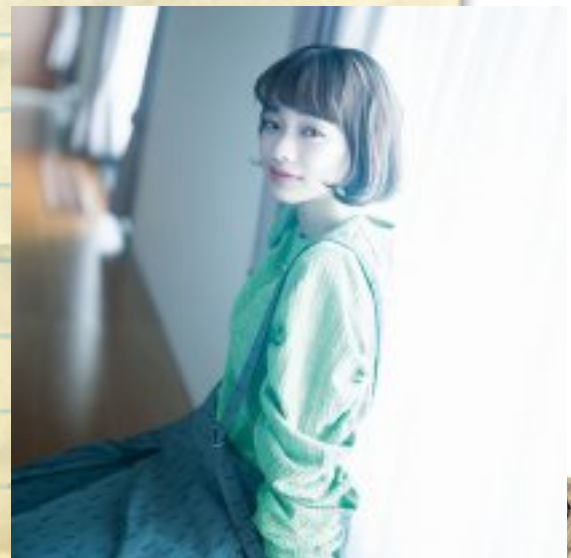
安部公房『他人の顔』を高校時代に読んだと語る見上愛。

確かに、容貌が気になる時期に読むと切実かも。

【見上愛さんが選んだ1冊は？「思春期の整理のつかない
自意識に、主人公の不安定な自我が響きました」

】 <https://ddnavi.com/interview/1046690/>

@d_davinci



今月のワープロ文豪

jurys memories bot@jurys_favorite·Nov 14

NWPシリーズ/富士通の「OASYS」に対抗し日本電気(NEC)が発売した同社初の日本語ワープロ。1980年発売の「20」に始まり、亜種の「10N」は安部公房が愛用。これは作家がワープロを用いて執筆した最初の例とされる。なお安部は後に後継機の「文豪」の開発にも協力し、遺稿も同機のデータから発見された。

今月の終りし道の標べに

ホッタカシ@t_hotta·Nov 12

安部公房『終りし道の標べに』は、出版直前まで『粘土塀』のままだったんですね。

Quote Tweet

ヒロ

@Pocky1123·Nov 12

『不毛の墓場』に挟まっていた真善美社の出版目録。アプレゲール新人創作選の一覧には当時新人の安部公房の名前も。『粘土塀』とあるのは『終りし道の標べに』の仮題か。

#アプレゲール新人創作選

#終りし道の標べに

今月の壁と芥川賞

菅野和明

@Tw1tSLgaaWzK2Qv

·Nov 11

読了

芥川賞全集第四巻

#安部公房

#壁

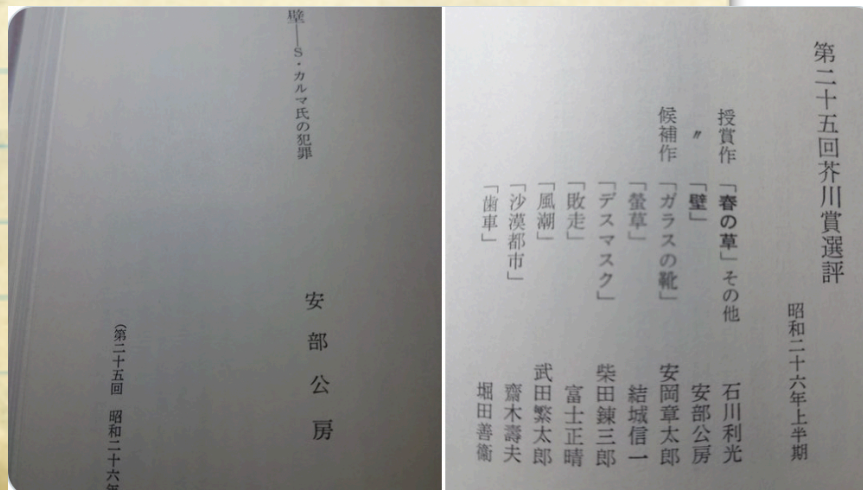
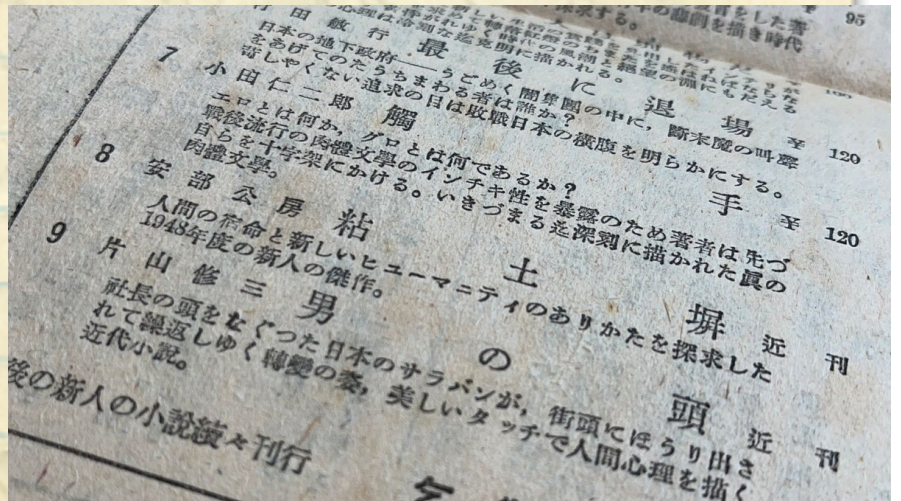
この作品、大好き。

五、六回は読んでいます。

宇野浩二が、世界の文学と比較し、『無』から『有』を無理に生み出したと解説。安部公房の独特の喪失感は、後世界でも読まれるように。三島がライバル視してた1人。

#読書好きな人と繋がりたい

#読書



今月の幽霊はここにいる

八嶋智人@meganeouji840・Nov 8

新幹線🚅なう🎵

#PARCOプロデュース

『#幽霊はここにいる』の

お稽古にお休みを頂いて広島へ👉

本読みをして #神山智洋 くんの声は

とても誠実で耳にスッと入ってくる👍

その声の残響を心で聴きながら台本を読もう❤️



#安部公房 のシニカルでシュールな喜劇は奥深い!!!

きゃんばります👍

#八嶋智人

今月の砂漠の思想

日本近代文学館@bungakukan・Nov 15

【館報11月号刊行】今号のエッセイは

佐藤究さん「詩人のトランクから」、古井戸秀夫さん「安部公房『砂漠の思想』」栃木市立文学館についてご紹介いただきました。

(1) 日本近代文学館 No.310 2022.11.15

日本近代文学館

電子・高知

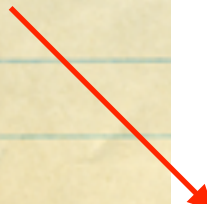
No.310 2022.11.15

日本近代文学館はこれまで、実に多くの方から貴重な資料を受け入れてきた。ぜひ胸懐に、という高層のありがたいお気持、館の全員受けとめて来たのである。著者ご家族、現在の所蔵者など、誰もが深い感慨を持って、資料を託して下さい。資料は多くは紙だが、本人が作品を書き、それを多くの方が守り、後世の人がそれを意味づけるのは、「人」の営みである。そのことを、改めて思う。

冬季企画展「新収蔵資料展」 「萩原明太郎大至2022」同時開催 十二月三日(土)から〇二三年二月二十五日(土)まで、冬季企画展「新収蔵資料展」編集委員栗原敏、林淑美を開催する。二〇一七年以降に新たに「寄贈」された資料の中から、新しい文庫コレクションの紹介をはじめ、特色ある雑誌資料や「明治文学の名品」「文豪の手紙」「文豪の書」などのテーマ毎に貴重な資料の魅力を展示する。併せて森鷗外没後百年を記念した展示コーナーを設ける。

今月の一枚 火野葦平 色紙

文学館の扉	文学館を支える寄贈資料	中島 国彦
文学の風景	詩人のトランクから	佐藤 究
わたしの蔵書	安部公房『砂漠の思想』	古井戸 秀夫
文庫	記念館 栃木市立文学館	石川 拓也
視覚-文学と美術	俳人としての川端龍子	村松 道子
リトルマガジンは今	会員雑誌「鬼ヶ島通信」児童文学の冒険と	那須田 洋
	道の場として四十年、そして、これから	津 永吉
	短書「琉球文学大系」の完成を目指して	波島 敬
	「日本近代文学大系」とは、歴史的な「全体」というもの	波島 敬
	所蔵資料研究 田中貴太郎宛書簡(水守亀之助、宮地嘉六、村松精風、安成二郎)	波島 敬
	図書-資料受入報告	波島 敬



今月の夢の逃亡

itsuki@読書垢@g52694303-Nov 13

『夢の逃亡』安部公房

初期短編集。どの作品も夢を見ているような突飛な展開が続き、読了後もふわっとしたイメージしか頭に残らない。それでも何故か読んでいてワクワクさせられる。「薄明の彷徨」の巧みな構成や「啞むすめ」の寓話的世界観など、後の作品に出てくる要素が随所に見られるのも面白い。



今月の新潮社

新潮社 本の学校

@Shinchokohza

.Nov 11

「新潮社 本の学校」名物の「6分無料」サンプル

動画も公開中→<https://onl.sc/ijeKVdY> レジュメも公開します！#大江健三郎 #司修 #安部公房 #有吉佐和子 #猪熊弦一郎 #丸谷才一 #和田誠 #小林信彦 #平野甲賀 #倉橋由美子 #村上春樹 #大森和也 #純文学書下ろし特別作品 #新潮社

今月の上演：友達

yu-r/hs@fYDnTziCYpQiYgn-Nov 8

プロジェクトYu-Kaプロデュース公演、

安部公房:作/野崎美子:演出

『友達』コロナにも罹らず7st.(10/26~

30)駆け抜けました！ご観劇頂いた皆様に

感謝致します、ありがとうございました😊

素晴らしい仲間たちとの出会い、創り上げた達成感。また再びどこかに不思議な家族は

現れるかも、お楽しみに😊



【本の学校】

新潮社

社内装幀者という仕事〈第1回〉

本らしさとブランドはこうして作られる

講師：大森和也（新潮社装幀部/前部長）

chapter1:

1977年、本がもっと幸せだった時代～純文学書下ろし特別作品にみる装幀の変遷

- 講談社出版文化賞第1回ブックデザイン賞（1970年）で新潮社出版部（『丸岡明小説全集』）が受賞
- ブランドはこうして作られる——「本らしさ」が求められた
- 1977年9月の編成会議
 - 驚くべきラインナップ。すごい会社に入ったと衝撃を受けた。ほとんどが函入り、布表紙。
- ・『監獄の誕生』M・フーコー
- ・『死の線』鳥尾敏雄【装幀：司修】※大森講師が担当しました
- ・『愛のむこう側』朝吹登水子
- ・『半ちく半助捕物ばなし』古川高麗雄
- ・『事件』大岡昇平
- ・大江健三郎全作品 第2期1 万延元年のフットボール
- ・日本古典集成 落窪物語
- ・門地文字全集
- 初めてジャケ買った本——『ピンチランナー調査』大江健三郎【装幀：司修】
- 貼り函、布表紙、箔押しがその頃のスタンダード——各々の数奇な運命
- 本というものはロングテールの商品である
- 純文学書下ろし特別作品について
 - ・丸山門喬：『週刊新潮』の見出しの文字を書いていた
 - ・活版印刷のこと——紙型（しけい）に鉛を流し込んで刷版（さっぱん）を作る
 - ・『同時代ゲーム』大江健三郎【装幀・装画：司修】
 - ・『恍惚の人』有吉佐和子【装画：猪熊弦一郎】——194万部を売り上げた
 - ・『裏声で歌へ君が代』丸谷才一【装幀：和田誠】
 - ・『ぼくたちの好きな戦争』小林信彦【装幀：平野甲賀】

今月の幽霊はここにいる

Me & Her コーポレーション
@Me_and_Her_co·Nov 14

【<福本伸一>「舞台」PARCO・プロデュース2022『幽霊はここにいる』

作：安部公房

演出：稲葉賀恵

東京公演：2022年12月8日（木）～12月26日（月）PARCO劇場

大阪公演：2023年1月11日（水）～1月16日（月）森ノ宮ピロティホール

<https://stage.parco.jp/program/yuurei>】

今月のシンセサイザー

K. Tanaka@B3QP·Nov 13

聖書とハイデガーと安部公房を引用した英語ミク
歌にAI音源をサンプリングするというピーター・
ティールのコンセプトなのだが、ターゲットが
不明なうえ作曲が素人し誰も見てくれないん
だろうな・・・。

<https://www.youtube.com/watch?v=EugGqztNRZI&t=2s>

今月の藤野くん

飯テロ小説bot@nuenonamae·Nov 9

親指ほどの太さもある、チョコレート・キャンディだった。つまり、容器にふさわしい
内容だったわけである。藤野君は、赤い大きな舌を出して、そのチョコレートの棒を
しゃぶり始める。ひと舐めごとに、息を入れ、ゆっくり時間をかけて、しゃぶりはじ
める。

安部公房「藤野君のこと」

今月の対談

～@slowfade__·Nov 11

安部公房・渡邊格 対談完全版 Abe Kōbō

<https://youtu.be/-wnxaqxYljY>

@YouTube

より



今月の英語圏の愛読者

Abe Kobo 安部公房@AbeKoboQuotes·Nov 13

My beloved friend,
In this text is told
Of the night that brings all things into existence
And of man's being,
And through these things,
Of every manner of affirmation and loud laughter
And songs of heroes.

Abe Kobo 安部公房@AbeKoboQuotes·Nov 12

It is the existence of the reader that holds the key to discovering motives, just as it is his mode of existence that determines the mode of fictional expression (or cognitive structure).

Abe Kobo 安部公房@AbeKoboQuotes·Nov 13



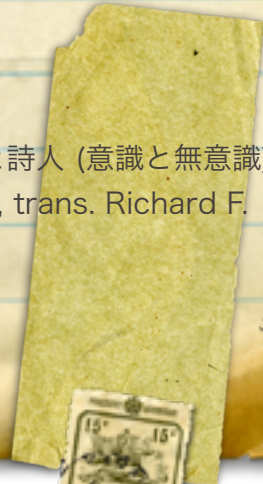
All fog and dust open up
And a celestial body, glowing and eternal,
Enveloping all noble souls,
Will finally emerge.
At that time
This text will burn away
Through its own heat.

Abe Kobo 安部公房@AbeKoboQuotes·Nov 14

Within the darkness he saw his own face staring back at him, as if reflected in the window of a night train. A hallucination, of course. His face was on inside out. Frantically, he tore it off and put it back correctly. The moment he did so, everything reverted back to normal.

Abe Kobo 安部公房@AbeKoboQuotes·Nov 13

Poetry and Poets (Consciousness and the Unconscious) (詩と詩人 (意識と無意識)), 1944. Collected in *The Frontier Within: Essays by Abe Kōbō*, trans. Richard F. Calichman.

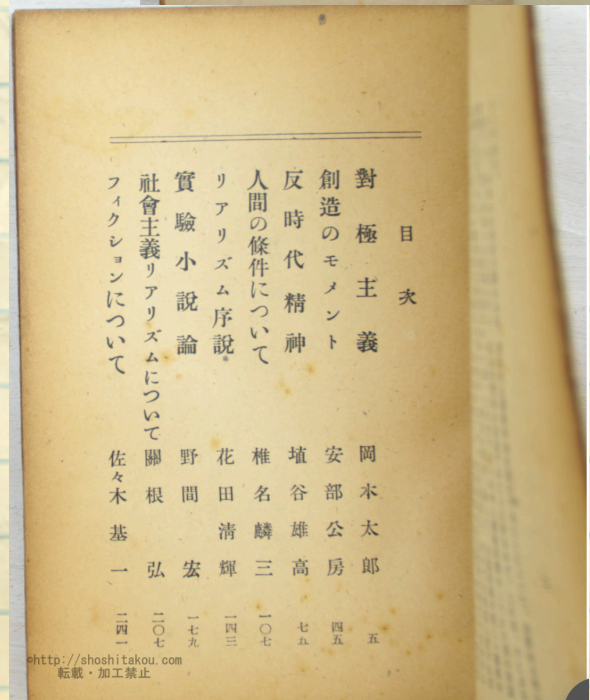
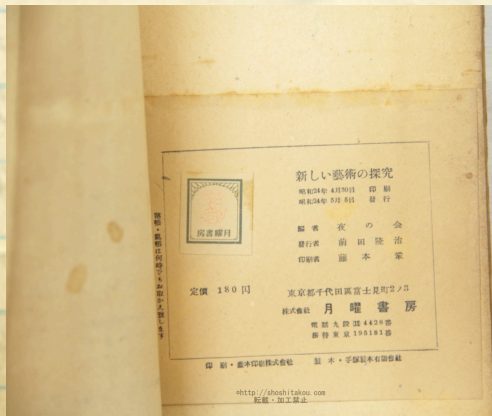
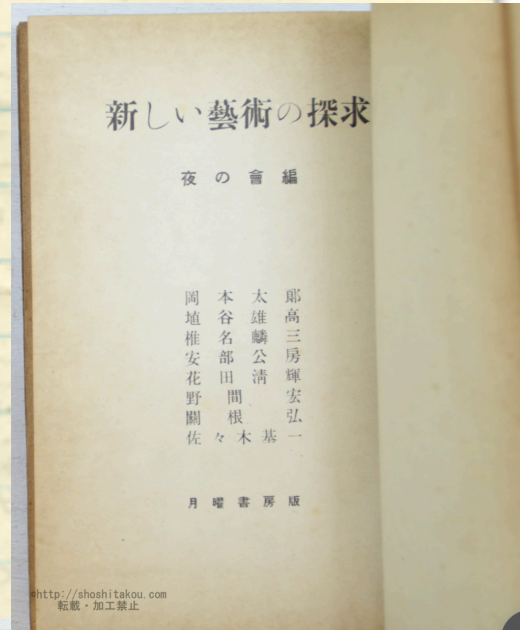
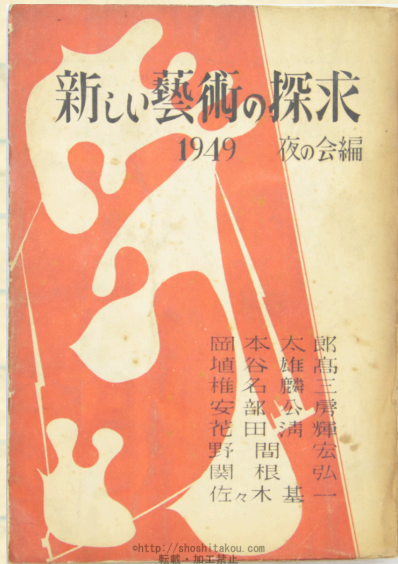


今月の夜の会

古書 書肆田高@shoshitakou・19h

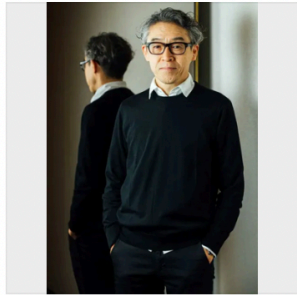
「新しい芸術の探求」夜の会 編 安部公房 岡本太郎 埴谷雄高 花田清輝 関根弘 野間宏 椎名麟三 佐々木基一 1949 (昭和24年) 月曜書房 を入荷しました

<https://www.shoshitakou.com/items/67490928>



今月の浅野和之

「自分を見てくれている人は必ずいる」 “奇跡”を起こした浅野和之 の芝居への情熱
(週刊朝日)
<https://news.yahoo.co.jp/articles/298127f639f11a32b70ec7aa05102bc74a759124?page=1>



浅野和之 (あさのかずゆき) / 1954年生まれ。東京都出身。安部公房スタジオを経て、87年に夢の遊眠社に入団。2005年の「12人の優しい日本人」などの演技で、紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞最優秀賞を受賞。11年にも「叔母との旅」の演技で、読売演...

今月の山口果林

【山口果林】1970~80年代にかけて活躍したベテラン女優！小説家・安部公房との恋愛やかつて披露した官能シーンなどもリサーチ！ - Middle Edge (ミドルエッジ) <https://middle-edge.jp/articles/YCLuG>



2022年10月30日 更新
【山口果林】1970~80年代にかけて活躍したベテラン女優！小説家・安部公房との恋愛やかつて披露した官能シーンなどもリサーチ！

主演級ではなかったものの、数々のドラマ・映画に出演され、作品を脇から支えたベテラン女優・山口果林さん。映画『海潮音』で披露した官能シーンは印象的でした。今回の記事では、そんな山口果林さんにスポットを当て、安部公房さんとの関係性や代表作などをエッチな目線で振り返ってみたいと思います。



419 view

マルチな活躍ぶりをみせた山口果林さん

SMOKING GUN
@862199 · Follow

今日の美人女優 #121
山口果林
Japanese Actress #121
Karin Yamaguchi
#美人女優 #美人



8:47 PM · Jun 15, 2020

69 Reply Share

[Read more on Twitter](#)

本名 : 山口静江
生年月日 : 1947年5月10日
血液型 : A型
身長 : 160cm
出生地 : 東京都中央区
職業 : 女優
活動期間 : 1970年~



もぐら文学賞第一回募集要領

もぐら通信の創刊号（2012年9月30日）から数えて来月が丁度10年目です。この10年の節目を記念して、誠に「時知らず者」の安部公房には申し訳ないが（『中壘筆宛書簡第4信』全集第1巻78ページ下段）、敢へて小説の募集をします。

1. 応募期間：2022年9月1日より2023年8月31日まで1年間。発信主義。着信主義ではない。8月31日付の発信は有効です。

2. 送付先メールアドレス：eiya.iwata@gmail.com

3. 対象ジャンル：小説

4. 小説の長短：

次の安部公房の短編の量の間のいずれかの量：

(1) 『赤い繭』の量：最小2000文字（400字原稿用紙5枚）

(2) 『魔法のチョーク』の量：最大6300文字（400字原稿用紙16枚）

(*) コントは対象外とします。

5. 応募条件：

(1) 安部公房の読者

(2) 一人何篇でも応募可。応募のたびに名前を変へること可。

(3) 年齢：不問

(4) 性別：不問

(5) 国籍：不問

(6) 言語：不問。編集部で日本語に翻訳し、原文とともに掲示します。

(7) 提出文書のフォーマット：pdf

(8) かな・漢字：新旧字体不問、正仮名・当用仮名不問

6. 応募名：

(1) 本名を名乗つてはならない。

(2) 安部公房作品の主人公または登場人物の名前を名乗つてはならない。

(3) ネットのハンドル・ネームまたは独自に案出した応募名で可

(4) 最も望ましい応募者は国家に登録されておられない者である

7. 選考委員：

(1) もぐら通信の全ての読者

(2) 国内外の読者を問はない。

8. 作品の公表：

(1) 編集部には到着後都度読者に配信します

(2) 月毎の配信の号に掲載して応募記録を残します

9. 評価方法・評価基準：

(1) 安部公房の読者としての選考委員の独自の判定基準に委ねる

(2) 採点の範囲は、1点から10点まで

(3) 最終的な判定は、もぐら通信編集部及び発行人が各作品に下す

10. 評価・選考のためのネット選考会月次開催

これは都度案内します

11. 賞金：10万円

最終受賞者の複数ある場合には均等に分割する

12. 将来の展望：

ノーベル文学章の日本円換算1億円以上にします

以上

応募作品一覧

筆名	作品名	受付日
1。芸太	弱さ	2022年・令和4年10月20日

巻頭詩
(49)
明石の笛吹男
—日本の物語—

D.J.エンライト
翻訳 岩田英哉

THE PIED PIPER OF AKASHI:

A JAPANESE TALE

Despite the striking rows on rows of little stones,
and large statistics,
Despite the vivid rags and ill-consorting bones—
a fairy tale alone can make it real and true.

At ten in the morning the black planes flew
across to bomb the factory
That made black planes. A happy harmless time of
day
For children and the aged, both at their various
play.

The young ones and the old ones scurried to the
park,
the pretty refuge of the useless and the refuse
Of the race. Away from the dark planes in the sky,
the dark planes on the ground.

But in the morning brightness, the dazed planes
found
A human target, by a human error, and let their
sleeping brothers lie.



They taught the pines a lesson, the grass repented
its aggression. While nearby
The factory shuddered slightly at the sight.

That night the workers, back from perilous bench
or office,
Found their home-town queerly run to middle age—
no docile daughters, no imps of sons,
And hardly any ancients, whether cracked or sage.

Yet time and our native riches have once again
refuted
the frozen spell of elves
And witches. New old were soon recruited,
from ourselves.

The young sprang up afresh, careless of wrongs and
rights,
to shame the frailer rice
And harass our economy. They filled the ownerless
kimonos,
and flew their dusty brothers' kites.

The park is full of bold and bandy babies, and a
glory
Of chrysanthemums and paper bags. The nearby
factory is full
Of busy adults, glittering planes, and foreign capital—
a kindly fairy ends our little story.

【和訳】

沢山の小石で出来た列が幾つも幾つも瞠目するほどに並んでゐるのに、
そして（小さい石に対して）大きな統計資料があるのに、これらにも拘ら
ず、
沢山の生き生きとして鮮やかな襦袢（ぼろ）と、病気に罹患してゐる沢山の骨が
あるのにも拘らず—



妖精の物語だけが、それを現実のものとなし真実のものとなすことができるのだ。

朝の10時に黒い飛行機たちが飛んで来て
工場を爆撃して通り過ぎて行くが
それが黒い平面を作った。幸せな危害のない時間だ、
昼間の時間で、この時は
子供たちや年寄りたちにとって、この二つの者たちには丁度
色々な遊びや楽しみをしてゐる時だった。

若い者たちと年老いたものたちは、追ひ立てられて
公園に向かったが、
役立たずものたちの結構な避難所であり、
人種の拒絶の場所だ。空にゐる黒い飛行機どものつくる面積とは別に、
地面は地面で黒い平面積だ。

しかし、朝の輝きの中で、目の眩んだ飛行機が
見つけたのは
人間といふ射撃目標で、これを誤つて撃つたのである、さう、そして、目の眩んだ飛行機どものこれら眠つてゐる兄弟（はらから）たちを横にし横たへたままにしてをきなさい。

この兄弟たちは、数多くのパイナップルに一つの教訓を教へたのだし、雑草は其の繁殖力の強い攻撃的な支配力を後悔したのだ。近くの工場が其の光景を見ただけでわづかに震へてゐた其の間中ずっと。

その夜、労働者たちは、公園にゐれば危害を受けるかも知れなかつた公園のベンチや仕事場から戻つて、
見つけたのは、何かが外れてしまつて、あつといふ間に、彼らの田舎の町が中世の時代になつてゐるのを見つけたのであり、大人しくて従順な娘たちもゐないし、息子たちといふ悪餓鬼どももゐなかつたのだ。
そして、こんなことはほとんど古代人にもなかつたことだ。頭のイカレた野郎であらうが、賢者であらうが、こんな酷い目にあつた人々は古代にもゐなかつた。

しかし、時間と私たちの元々持つてゐる富といふ富、財といふ財が再び
餓鬼どもと魔女どもの掛けて凍りついてゐた呪文は間違つてゐたことを証明し



た。新しく、古いものたちが間も無く採用されたが、それは私たち自身といふ老年者の間からなのであつた。

若者はといふと、すつかり新しくなつて心機一転飛び上がったが、間違ひと正しいこととに無頓着であつたので、

悪に染まりやすい脆弱な米を恥じ、我が国の経済をいなして相手にせず大人たちの思ひ通りにはさせなかつたのである。若者たちは持ち主のみない着物を着て、

そして、彼らの埃つぼい（蔵から持ち出して来たやうな）兄弟たちの風を上げたのだ。

公園は、傍若無人のO脚の赤ん坊たちで一杯であり、沢山の菊の花と紙の袋が輝きで満ちてゐる。近くの工場は

忙しい大人たち、ピカピカと光を反射してゐる飛行機、そして外国資本で満ちてゐて――ここで、親切な妖精が私たちの小さな物語を終わりにするのだ。

【解釈と鑑賞】

一体この詩人は、日本の先の戦時下にあつて日本に住んでゐたのではないかと思ふほどに書かれてゐる詩です。何故、イギリス人である此の詩人がドイツの民話であるハーメルンの笛吹き男を題材として、二重写しのパロディーの詩としたものか。

ハーメルンの笛吹を下敷きにしてゐる。明石の笛吹男の物語。

上掲転載の2ページにわたる詩行のうちの2ページ目の、二行単位で書かれてゐる連のうちに、半ばより少し下、後半の最後のところにあるour economyを私は我が国の経済と訳したが、ここまで読んで来ると、どうもこの詩人はイギリス人といふ外国人でありながら、自分自身を日本人となして此の詩を書いてゐることがいよいよ明らかに思つたからである。それならば、最後の一行にour little storyとある此のourも我が国のとか、私たちのといふ所有形容詞を其のやうに訳しても差し支へがなく、更にさうであれば題名の副題である a Japanese Storyも、なるほど確かに或る日本の物語ではあるが、不定冠詞を置いて物語つた此の特定の、さういふ意味では定冠詞付きの話となつた此の日本の国の我が物語は、第一連の4行を日本の国内でか海外への出征でかいづれにせよ死者の数を小石の列なす列にたとへて、それが胸打つ衝撃であるが、しかし、其れに負けてはいけ



ないと始める詩であり、襤褸（ぼろ）は来てても心は錦といふのが其の次の二つ目のdespiteで始まる二行である。だから、この話は妖精の話でなければならず、さうでなければ、私たち日本人の心も生活も救はれない、と詩人は考へた。死者も生者もともに、その存在を現実であるものにし、且つ真実のものにしなければならぬ。それが妖精の物語である。

といふことは、明石の笛吹き男と、ドイツの民話にならつて訳してみたが、普通妖精は可愛らしい妖精の女性であらうから、あるいは子供のやうな性の未分化の存在であらうから、笛を吹くのが女性ならば笛吹き女とするところであり、しかし他方、これが詩人のことを言ふのであれば、そのまま良いといふことになる。後者の場合ならば、詩人は此の時明石に住んでゐたといふことになります。前回の詩人の友人は東京から明石に来たのだと思ふことにして話を続けます。この詩の理解の話です。

第二連は戦時中に爆撃機が飛んできて、これが黒い飛行機と表現してゐるが、黒い機体といふことよりも、黒い不吉な怪鳥のやうなアメリカ軍の爆撃機と解することにして、黒い色を心理の色ととることにします。それで工場が破壊されて瓦礫となつた。破壊する飛行機もblack plane、破壊された工場の平たくなつた瓦礫の面もblack planeといふ黒い色と飛行機のplaneと平面の面のplaneの掛け言葉となつてゐる。

さうして、爆弾の落ちてきた時は昼間の何かのどかな時間であつたことが、其の子供たちと老人の遊んでゐる様で示されてゐる。そこに敵機来襲ですから、市内の公園に避難をしたといふ。子供も老人もthe uselessと無用の者と呼ばれてゐる。だから、無辜の民への襲撃であり攻撃であるので、これは酷いことだといひたいのかも知れない。この詩人の筆使ひのタッチは、文字通りにtouchであつて非常に絵画的な感触があります。小さなtouch・筆触で全体を表すのです。この子供と老人を併せてthe useless、役立たずといふやうに。続いて、the refuse of the raceとあるので、言葉のままに人種の拒否と訳したのは、これではまだ生硬な日本語ですが、要するに白人種であるアメリカ人の敵を拒絶するといふ意味です。其れが空にゐる黒い飛行機から逃れて公園に避難する術（すべ）である。高さにゐる飛行機に対して、地には黒い工場跡の潰された平面といふ対比が歌はれてゐる。

この空襲は朝であり午前中であつたので、日は明るく、人間の標的を見つけるの



は容易であつた。さうして無辜の民を撃つてはならぬのにも関はず、人為的なミスで過誤によつて射撃してしまつた。それならば、そのままにしてをいて、兄弟たちを眠らせてをかうではないか、といふのです。この兄弟たちとふ言葉の選択も、此の詩人がイギリス人であるにも拘らず、日本人になり切つてゐる心情をおもへば、日本人のいふ兄弟と書いてハラカラと読ませる同胞といふ意味であることがわかります。

其の次の、二つ目のページに移ると、このThey taught the pines a lessonといふのがよく分からない。イギリスの慣用句なのかも知れないと思つてあたりましたが芳しい答へがない。文意を和訳すれば、和訳した通りに、数多くあるパイナップルに一つの教訓を教へて理解させるといふことですから、横たはる死者である同胞たち兄弟たちは、戦争で殺されて死んだとしても残して伝へたい一つの教訓があるのだ、といふ意味になるでせう。この教訓が何であるかは、次に続く文、

The grass repented its aggression.

この一行に教訓が露わになつてゐる。といふのは、この雑草といふgrassは攻撃を悔いてゐるのですから、黒い飛行機のアメリカ人のことであり、ひいてはアメリカの国のことですが、アメリカ人を十把一絡（から）げで雑草と呼んでゐるところが、パイナップルといふ果実といふ実りに対して、反対に雑草といふ実りのない草ぐさをもつてきて対比することで、我が同胞を鎮魂しようといふ心ではないかと思ふのです。

この日本人の死者による教訓の教へとアメリカ人による無辜の民を過誤で死なせた後悔のあつた話は、工場の破壊されたあの黒い平面を目撃して、破壊された工場自体が意志あるもののやうに、勿論立つてゐはしないのであるが、しかしその光景を見て震えた。鳥肌が立つた。この一行は上記の文脈から、日米ともに死者と罪の謝罪を莊嚴して穢れを祓はうといふ、かうして、心です。

避難所である公園のベンチや或いはどこのベンチでも良いのですが、または事務所から、労働者が戻つて来ると、自分達の町は破壊されて文明のない中世のやうな姿になつてゐた。あの賑やかな子供たち、無垢の民である娘や息子がどこにもゐない。これは悲嘆の箇所の手紙ですが、詩人はそれを直かに文字にはしてゐないし、言葉もその言葉を選んでゐない。古代のイかれた野郎と賢者といふ両極端を持ち出して来て、詩人はその間にゐる普通の人々も古代だつてこんなこの世紀の



時代までにもこんな酷い事件はなかつたといひたいのです。

しかし、日はまた昇る。時間と国土の富が再び悪鬼と魔女の呪文の束縛を解かれて生まれて来る。それも、私たち自身から生まれて来る。さうであれば、むしろ年寄りから始まるといひたいのか、其れとも此の私たち自身とは、日本人の老若男女の全体をいひたいのか、いづれでも理解は可能です。その次の連が若者から始まるので、ここの連は老人たちととるのが良いかも知れない。

若者は、しかし、若さ故に分別がないので、善悪や良し悪しの分別がつかず、米は悪に染まりやすい軟弱な食料だと言つて日本の食事の基本である米を食べようとせず、日本の経済、我が国の経済を再興するには此の妨げをして恥じた。この、悪に染まりやすい軟弱な食料だ、といふ表現は、まあ、これは戦争に関係するから二度と戦争の惨事を惹き起こさぬためには米を食べない方がよいなどといふ当時あつたかも知れないとこれによつて想像する時勢を想像させます。これが若者の無知無謀といふ分別のないといふことで歌はれてゐる。衣食住の確保が大変だつた、物質欠乏の当時では、着物も人手に渡りわたつて手元にやつて来た持ち主不明の着物であり、正月に上げる凧もまた、死者となつてあの工場の瓦礫跡に横たはつてゐた兄弟・同胞の上げてゐた凧である。蔵から出してきたのか、だからdustyなのだ。

戦争が終はつて公園にやつて来るのは新しい生命であり、赤ん坊を抱いて連れて来る若い母親たちで一杯である。母親たちが手にしてゐる菊の花と紙袋とは何を意味するかといへば、菊は当然に天皇家の紋章であり日本の国の姿形を、その全体を象徴させて、このタッチで表し、他方紙袋とは商売の再興・再盛の賑はいを、工場のあつたそばの公園に表してゐることを歌つた。この公園のそばの工場では、はや仕事で忙しい大人たちや、ここは兵器工場なのでせう、機体の光る飛行機の製作が、外国資本で一杯に始まつてゐる。妖精は親切心があるので、ここで小さな私の物語はお終ひ、といふわけです。とすると、この妖精とは詩人自身ことであつたと、最後に判ります。だから、笛吹き男で訳語は問題はなかつたのです。さて、この外国資本の流入から約80年、その資本の行方はどうなつたか。工場跡に横たはつてゐる同胞である死者たちは眠りから覚めるのか、覚めてゐるのか……

なんだか、詩文を全て散文に置き換へてしまつた。



コーボー・ベーシックス

kobo basics

(10)

サーカス3：大陸のサーカス

岩田英哉

既に、この主題については二度原稿を上げてみますので、これが三度目の連載になる理由は、偶々亀井俊介著『サーカスが来た！アメリカ大衆文化覚書』を読んだからで、この中の最初の章から以下の箇所を引用して、子供の安部公房が奉天に来たサーカス一座の興行をどのやうにワクワクしながら迎へたかを想像するための縁（よすが）としてほしい。日本といふ平地の面積の限られた空間とは異なり、大陸の空間は広大ですから、サーカスに対するイメージ・形象と印象も異なつてゐて、前者は、私にもまだ其の感覚は残つてゐますが、親のいふことを聞かぬ子供が売られて行つてしまふと脅かされるやうな、人攫（さら）ひの移動曲芸団といふイメージがありますし、何よりも日本のサーカスは芝居小屋の延長での曲芸であつて、サーカス小屋で移動しない固定の小屋であるわけですが、他方、大陸のサーカスはさうではなく、移動して列車に乗つて遙か見知らぬ地平線の果てからやつて来る、子供たちには興奮するやうな魅力を持つた移動曲芸団であつたといふことです。今までの連載で、奉天には間違ひなく、木下サーカス団が何度も来訪したことはお話ししましたが、此れは私は国会図書館の同サーカス団の設立周年記念で刊行した本を閲覧して知つたことです。このサーカス団の従兄弟に当たる親族の設立したのが矢野サーカス団で、当時の慣行にならつて、この曲芸団も同様に朝鮮半島に渡つて興行を皮切りに満洲帝国のまづは大連に、次は安部公房の住む奉天に、其の後もう一つ満洲帝国の都市を巡つて、さらにロシア領内に入つて興行を続け、そこから引き返して、多分列車と船を併用して日本に戻つて来たことは間違ひないと思はれます。最初の引用は同書からの孫引きでウイリアム・サローヤンの『我が名はアラム』（1940年）から、二つ目は同様に今度はヘンリー・ミラーの中編小説『椅子の下の微笑』（1948年）の「エピローグ」からです。子供のサーカスに対するワクワクとときどきする胸の高鳴りと興奮を想像してほしい。

『我が名はアラム』：

「サーカスが町へ来る時はいつでも、もうそれだけで僕と相棒のジョーイ・レンナはいわゆる豚騒ぎにおちいつてしまったものだ。垣根や空っぽのショーウインドーにビラを見るだけで、僕たちはめちゃくちゃ興奮し、学校のことなど忘れてしまった。サーカスが町へ来ることを知るものだけで、僕とジョーイは、少しくらい勉強していったい何の役に立つのだという疑問にかられた。

は、少しくらい勉強していったい何の役に立つのだという疑問にかられた。

サーカスが町へついた後というものは、僕たちはてんで駄目だった。僕たちは四六時ちゅう汽車のそばにいて動物をおろすところを見物し、ライオンや虎をのせた車（ワゴン）についてヴェンチュラ通りを歩き、サーカスの広場をうろついては猛獣使いや労働者や軽業師や道化師のご機嫌をとろうとした。

サーカスはすべてであり、僕たちの知っているどんなこととも違っていた。サーカスには、冒険、旅行、危険、熟練、気品、ロマンス、喜劇、ピーナッツ、ポップコーン、チューインガム、ソーダ水があった。」（同書10ページから11ページ）

このサーカスのビラとは、そのまま芥川受賞作『S・カルマ氏の犯罪』に絵として出てくるビラになつてゐます。

『椅子の下の微笑』：

「私はサーカス、ことに「親しみが持てるサーカス」に対して抱いた自分の情熱や、観客および暗黙の参加者としてのその頃のいっさいの経験が、私の意識のなかに深く埋もれているに違いないというようなことに、思いをめぐらした。私はハイ・スクール卒業間際に、何になるつもりだときかれた時、こう答えたことも思い出した——「道化師になります！」（同書11ページ）

他には、私の好きなレイ・ブラッドベリーの『黒いカーニバル』といふ短編にカーニバルが出てくるものがあるが、これは厳密にはサーカス一座の興行なのではなくて、安部公房が『都市への回路』で述べてゐる都市化した農村の一部として在るサーカスであつて、この場合、安部公房はこのサーカスもカーニバルも、それから日本語でいふ農村にある祭りも、本来のサーカスとは異なると考へてゐることがわかります。ですから、この作家はサーカスもまた、農村と都市といふ対比をなす二項対立に位置する都市の文化または、この発言を読むとお分かりの通りに文明の問題として述べてゐるのです。祭りは農村のもの、カーニバルは農村に入つて来た部分的に都市化した農村の祭り。

このやうに安部公房の発言を拾つて整理すると、サーカスが「都市への回路」として機能してゐる理由は、その周期的な巡回性および都市の外部から交通体系に載つて（『カンガルー・ノート』の第5章「5 新交通体系の提唱」を見よ）或る日都市の外縁部か、または都市の内部を通らずに直接外部が内部に接続されて其の広い空間に出現する「都市への回路」〔註1〕としてやつて来る。以上のことを念頭に次に引用する発言を読みたい。キーワード・鍵語は、祭りとカーニバルの二語であり、この二つの言葉の間を接続して此の二つの概念、即ち農村と都市とを上位の次元に上位接続する、即ち積算する概念といふ言葉がサーカスである。安部公房流に此の積算するサーカス、掛け算としてのサーカスを数学的にもつといふと、繰り返し其の言語論で持ち出す、移動して止まぬ動態的な積分値のことです〔註2〕。サーカスについては『カンガ

ルー・ノート』論（7）および（8）と題して詳細に論じましたので、もぐら通信第72号および第73号を参照下さい。ダウンロードは：

第72号：<https://docdro.id/K61lfW>

第73号：<https://docdro.id/hhoIA7l>

「祭りとは何だろう。農民が年に何回か、排他性を破ってわずかに隙間をあけ、外部との交流を許される唯一のチャンスだったんだ。四日市とか三日市とか、市の立つ日は、そこに外界から遊民に類する者が細胞膜をくぐって入り込み、夢を売る。その夢には同時に非常に危険なものも含まれていたから、誰もが祭りに出ていいわけではなく、たとえば女の子などは絶対祭りには出してもらえなかった。

祭りにもけっこうルールがあった。そんなに陽気一方のものじゃない。ただ、農村が都市化するにつれて、祭りも変質していわゆるカーニバル的になってきた。それでもどこかグロテスクな死を連想させるものが、いぜんとしてしみついている。しかもそこに入り込むジプシーはちゃんと法律で認められたものだし、ジプシーが権力のスパイの道具に使われるということもあった。祭りというものは、けっこう権力の規制のテクニックとして有効に機能しているものなんだよ。裏側から見れば、祭りが人心の爆発、燃焼の代行をしているわけだ。未来が無限定な学生なんて、考えて見れば毎日が祭りみたいなものじゃないか。（全集26巻、229ページ）

この学生の身分は「未来が無限定」である以上毎日が祭りみたいなものだ、といふ発言の前提になつてゐるのは、また何を対象として批評してゐるかといふと、これは1960年代後半の学生運動および、1970年代前半に起きた連合赤軍内部での殺人事件があると推察することができる。安部公房の発言「祭りというものは、けっこう権力の規制のテクニックとして有効に機能しているものなんだよ。裏側から見れば、祭りが人心の爆発、燃焼の代行をしているわけだ。」は、さうであれば、学生運動といふものを此のやうにみてゐたといふことを意味してゐます。私が更に此の言葉を敷衍すれば、東京へとやつて来る学生は田舎から来たいはば農村の若者であり、「都市への回路」を知らず持たずに、田舎の文化を其のまま持ち込んだために、農村に準ずる場所を、「未来が無限定」であることを此れ幸いに運動したところ、「権力の規制のテクニックとして有効」に使はれたといふことである。この左翼学生の暴力的な運動に対抗して、三島由紀夫は政体を護る単なる平時の場合のための警察力の投入ではなく、軍事力として国体を守護する自衛隊の投入を予期してゐたが、時の政府はさうはせず左翼学生運動を警察力だけで鎮圧できたことに、憲法改正の命運が絶たれたと理解して、あの市ヶ谷での自決への道を進む契機とことにな

つたつたといふ事実を、親しかつた安部公房は当然に意識してゐると私は思ふ。政治の世界では「ガス抜き」と通俗にはいはれてゐるものに論理としては、学生であれ政治家であれ共に、通じてゐる。しかし、三島由紀夫は自決の一週間前の古林尚によるインタビューで、その政治家の手口は見抜いてゐることをいつて、「ガス抜き」にされることは、自分の活動には、ない。といふことを明言してゐて、その後の日本の歴史、即ち政治史と文化史に確かにその影響力は今尚保持されてゐる。

続けて引用する。

「カーニバルに惹かれる気持ちは誰にでもある。当然あるわけだが、カーニバルに惹かれる内部の暗黒を見つめることなしに、それを口にするのは、危険というよりむしろ甘えだと思ふな。だから新左翼的な運動の凋落は必然でもあつたかと思ふ。もちろん、永遠のカーニバルという主題は、そう簡単に消えるものじゃない。永遠のカーニバルというのは、ユートピアの別名だからね。しかし絶対に不可能でなければ、ユートピアにだってなり得ないじゃないか。

『密会』の中でもちょっと触れたことだけど、僕は祭りに対してもある種の不信感がぬぐい切れないんだ。つまり、祭りがあれば、その外にもう一つ別の祭りがあつて、誰かが見物してるんじゃないかと、祭りそのものが、見物されている見世物にすぎないんじゃないかという疑惑なんだな。カーニバルを思想として主張するほど、オポチュニストにはなりきれない。だから小説や舞台の上で、カーニバルを追い求めたりは絶対にしたくない。」（同巻、229ページから230ページ）

上述の積分値としてのサーカスを、安部公房は安部公房スタジオの演技論の領域では、ニュートラルと呼んでゐるわけです。従ひ、ニュートラルとは接続の上位概念であることが解ります。例を挙げると、「時間と空間の交差点」（『周辺飛行28時空の交差点としての舞台』全集第24巻、510ページ）、即ち、存在、といふことなのです。そして、このエッセイ「周辺飛行」の最後に、この《存在》について、かう書いてゐる。これが何故『使者』や『人間そっくり』にトポロジーが、ホモロジーといふ数学用語とともに、「箱の論理」即ち閉鎖空間からの脱出の論理として登場する理由なのです。

〔音楽と文学が二項対立を超越して〕「両者が自立しながら交差する場所としての舞台なのだ。そして俳優は、その交差点にあつて、時間と空間の両軸を、自由に往来できる使者でなければならぬ。ちょうど光が波動であると同時に、粒子でもあるように。」（同巻、513ページ）

[註1]

この都市の外部から都市の内部を経由せずに、直接其の内部に接続する形象として、18歳の安部公房は『問題下降に依る肯定の批判』に次のように書いてある。即ち、トポロジーは既に遅くとも成城高校生の時には既知の数学であつたといふことです（全集第1巻、12ページ下段から13ページ上段）。

「安部公房の道は、既に18歳の時に書いた『問題下降に依る肯定の批判』に、遊歩場と呼ばれる道として出て参ります(全集第1巻、12ページ下段から13ページ上段)。遊歩場という18歳の少年の命名は、そのまま後年の安部公房の文学の世界の本質をそのまま言い当てています。安部公房の作品は、すべて遊びの、嬉遊の、遊戯の世界とその道、即ち遊歩場という道の表現であり、その提示だからです。

この安部公房の道は、「他の道とははっきりと区別されて居なければいけない」のであり、この「遊歩場は二次的に結果として生じたもの」であり(晩年のクレオール論を読んでいるような気持ちになります。同じ発想です。既にこのとき安部公房のクレオール論は完成していたのです。)、
「第一に此の遊歩場はその沿傍に総ての建物を持っていなければならぬ。つまり一定の中とか、長さ等があつてはいけないのだ。それは一つの具体的な形を持つと同時に或る混沌たる抽象概念でなければならぬ。第二に、郊外地区を通らずに直接市外の森や湖に出る事が出来る事が必要だ。或る場合には、森や湖の畔に住まう人々が、遊歩場を訪れる事があるからだ。遊歩場は、都会に住む人々の休息所となると同時に、或種の交易場ともなるのだ。」という道なのですが、この文章を読むと、このとき既に、安部公房はtopology(位相幾何学)という数学を知っていたのだと言う事が判ります。

この道は、幾何学的な道であつて、そこには時間がありません。」

(『『方舟さくら丸』の中の三島由紀夫』もぐら通信第53号)

この「遊歩場は二次的に結果として生じたもの」であるといふところに、topologyの真髓があります。

[註2]

言語の形象(積分値)：

「ついでにパブロフについても触れておくべきだろうな。(略)でもあえて推測すれば、要するに言語は一般条件反射の積分値だと言いたかつたんじゃないかな。

——積分値、ですか？

安部 積分値というのは、要するに平面上に描かれたあるカーブを、平面ごと移動させて出来る三次元像を考えて貰えばいい。初めが円なら、こう、チューブになる……

これはパブロフの暗示にもとづく類推だけど、僕としては積分値よりもやはりアナログ信号のデジタル転換のほうを採りたいな。大脳半球の片方(言語脳)が、どんなやりかたで、アナログ信号をデジタル処理しているのかは、今後の研究に待つしかないけど、言語がデジタル信号であることは疑いようのない事実だからね。」(『破滅と再生2』全集第28巻、255ページ)

また、

「たとえばパブロフは、条件反射で有名なあのパブロフですが、《言語》を一般の条件反射よりも一次元高次の条件反射とみなしていたようです。(略)

「一次元高次」のという意味は、たとえば紙のうえに円を画き、その円を紙から離して空中移動させてみてください。チューブが出来ますね。平面が一次元高次の空間になったわけです。言葉を替えれば二次元が三次元に積分されたことになります。つまりある条件反射の系の積分値として《ことば》を想定したのがパブロフの仮説になるわけです。ぼくとしては「積分」よりも「デジタル転換」のほうを採りたいような気もしていますが、今のところこれ以上の深入りはやめておきましょう。肝心なことは、《ことば》をあくまでも大脳皮質のメカニズムとして捉えようとした姿勢です。」（『シャーマンは祖国を歌う—儀式・言語・国家、そしてDNA』全集第28巻、232ページ）

『都市への回路』論

(18)

(4) 音の領域[聴覚の小説『密会』]

①盗聴とセックス

岩田英哉

目次

(1) 小説『密会』をめぐって[聴覚の小説『密会』]

- ①病院といふ舞台
- ②強者と弱者
- ③逆進化の逆説
- ④現代小説の陥穽
- ⑤マルケスとポー

青字がこれまで論じて来た項目、赤字が今回論じる項目、黒字はこれからのものです。

(2) 演劇について

- ①アメリカの『友達』
- ②演劇の現代
- ③夢と俳優
- ④デジタルとアナログ

(3) 写真について[視覚の小説『箱男』]

- ①写真について
- ②覗きの構造
- ③廃棄物

(4) 音の領域[聴覚の小説『密会』]

- ①盗聴とセックス
- ②音楽の時間
- ③抒情の効果

(5) 都市に向つて

- ①花田清輝
- ②国家と暴力
- ③都市に向つて
- ④祭りへの不信

(4) 音の領域 [聴覚の小説『密会』]

②音楽の時間

①盗聴とセックス（続）

このことは今の安部公房の読者に伝えてをきたいと思つたので、前回の続篇として、ここに短い一章を設ける。

それは、安部公房が作品と作家の関係を、それぞれに原因と結果といふ因果律で二項対立とて論じてをいて、いつもの通りに此の作家の論は超越論ですから、二項対立の二項を否定して第三の積算値としての道を選択するといふ論理展開を前の章でしてみたことに関係することです。たまたま、河上徹太郎著『有愁日記』を読んでみて、次の一節を知つたので、ここに記録として残すものです。即ち、この主題は、同書の「テスト氏の存在」の章にてデフォーの小説の主人公ロビンソン・クルーソーといふ孤島で一人自力で生活する男の生き方を論ずるところで語られてゐる。それは次のやうにです。これはこの文章の作者ヴァレリーの書いた文章であり、同時に登場人物であるテスト氏の言葉です。

「ロビンソンは自分のあばら家の櫃と箱類との匂ひの中に、未来の現存を嗅ひだ。

満ち足りたロビンソン。これは興味ある設定である。彼は何故満ち足りてゐるか？それは彼がひとりぼつちであるからである。それから又、難破直後彼が素足で終日食糧を求めて歩いたからである。彼は今衣食住の飼料の豊饒に取り囲まれ、明日の日を思ひ煩ふことがないのは、今日の日を思ひ煩つたからである。それならこれは彼の意に反した誤算でなければならない。製作物とは何ものでもないとはテスト氏の信念である。然るにロビンソンは今自分の製作物に守られ、満足させられ、しかもこれに支配されてゐる。この自分にとって全く無縁なもの。自分との異質物。しかも自分の代替物。自分の創造主。「作者は作品の原因ではない。その結果である。」

この引用の最後の「作者は作品の原因ではない。その結果である。」といふ一行は一重鉤括弧で括られてゐるので、これはヴァレリー以外の作者からの更に引用であるといふことになりませんが、今これが誰の言葉なのかを特定することができません。

私のここで伝えたいことは、この主題が特殊安部公房の提示した主題なのでは

なく、間違いなく日本のフランス文学研究者の翻訳によつて紹介された作家の言葉だといふことです。

河上徹太郎の此の一章をなす寄稿文の発表は、「あとがき」によれば、「「有愁日記」は昭和四十四年正月號から同十二月號まで、十二回に互つて連載されたものである。」これに対して、安部公房の当該エッセイは1963年3月1日であり、和暦に直せば、昭和38年ですから、多分昭和三十八年から昭和四十四年の7年間の間に日本の文学の世界で話題になり、議論の種となつた問題の一つなのでせう。安部公房は、ここで此の間に超越論で解答を示したといふことになります。

②音楽の時間

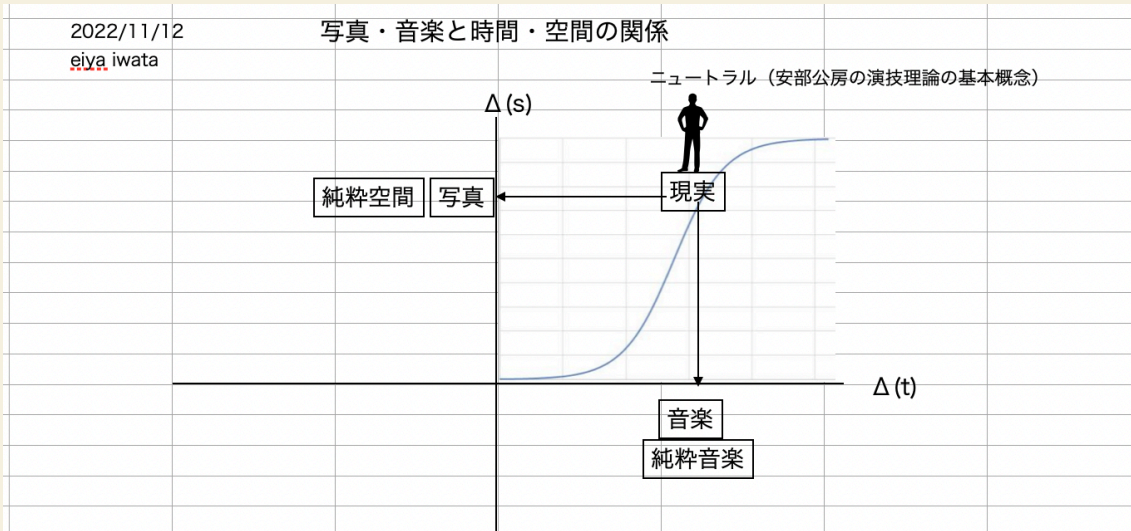
この主題についてインタヴューアーが『水中都市』の上演に当たつて作家がシンセサイザーで作曲をしたことをとらまへて、「写真に対して、音楽の世界を安部さんはどうお考えになつておられるわけですか」といふ問いに対する答へを、安部公房は次の三つの段といふか、節といふべきか、または順序で、全体を気に掛けながら聴き手に解り易く話してゐます。

- (1) 音楽および空間と時間
- (2) 舞台と音楽
- (3) 音楽とは何か

以下この順序で安部公房の話の内容をまとめたい。

(1) 音楽および空間と時間

安部公房は此処で、写真と音楽を論ずるために空間軸と時間軸との関係で、空間としての写真と時間としての音楽を説明してゐるので、次の座標軸を用意しましたので、これをご覧になつた後で、引用しながら安部公房の発言を要約し、説明します。



安部公房の「純粋」といふ概念の定義

安部公房のいふ「純粋」なるものとは、因果律によつてゐる二項対立を否定して成立する、時間を捨象した超越論の世界にある物で、安部公房が「美学的」(美的ではないことに注意;例「美学的軍服」(『ミリタリィ・ルック』同巻132ページ上段)「美学的欲求」(『ミリタリィ・ルック』同巻128ページ上段))だと判断するものが「純粋」などいふ形容詞の冠せられる物なのである。(「『都市への回路』論(17)」の「(4)音の領域[聴覚の小説『密会』]>①盗聴とセックス」(もぐら通信第163号))

上図は、安部公房の次の空間と時間に関する発言に基づいて作成したものです。これが安部公房の時間と空間を巡る結論です。この二つの純粋なものを純粋にするのは媒介者または媒体としてある其のニュートラルな人間です。

「じつに不思議な世界だね。空間、時間という二つの軸を座標にして考えると、現実はその二つの軸の間に描いたカーブとみなすことが出来るわけだ。写真はそのカーブの空間軸への投影だ。もちろん写真が時間に完全に影響されないかということ、そうはいかない。変色するとか、けっこう時間の影響をこうむる。

(略)

だから、純粋な時間などというものはあり得ない。」

これが現在といふ時点にあつて写真に撮影された当のものの空間軸への投影であるのに対して、それでは時間軸への投影はどうなるかといふと、「だから、

「純粋な時間などというものはあり得ない」にせよ、

「しかし仮に写真を純粋な空間と規定すれば、音楽を純粋な時間と言ってもいいんじゃないか。たしかに写真と音楽はいろんな意味で対照的だ。たとえば写真は記憶の中で細部の関係を再現しやすいだろう。非常に発達した視覚にたよっているからだね。ところが音楽の場合、単純なメロディーならともかく、瞬時にして音楽の細部を頭の中に復元しようと思っても、それは不可能だ。音楽は写真集以上に言語化がむづかしいということだね。」

安部公房の音楽に関する本質を問ふて得る結論は、上掲座標軸にあるあのニュートラルの状態にある人間が、さう、此処では安部公房スタジオの役者達に指導した演技理論であるニュートラルといふ概念を思ひ出してほしいのであるが、このニュートラルな交差点は時間と空間の交差点、即ち存在の交差点なのであつたから、この地点に立つ人間は、音楽とは何かと問はれば、それは「音楽の基礎は何といつても人間の生理的なリズムだと思う」と安部公房はいふのであり、この発言を見ると、音楽もまた生理的な当人のリズムに発するのだとすればこれはそのまま『水中都市』の上演でみづからがシンセサイザーを駆使して作曲をした其の心そのものなのであることが判り、「メロディだって音色も、けっきょくはリズムの複合物じゃないかと思うんだ」といふ結論も納得することが出来るのです。即ち、これでわかることは、

安部公房は、安部公房スタジオの舞台を色々な舞台要素を一つの人体の生理感覚に基づくニュートラルといふ概念を舞台上の俳優の演技と背景の音楽とを共通の此の概念原理で導いて、実際の時間の中で、統合的な体系的な空間表現としたかつた、といふことである。さうするならば、安部公房のニュートラルの演技を実践した俳優達の舞台は、いはば連続的にシャッターを押されて映写される、カメラで写された静止画像の連続的な展示の展開となる、といふことになります。子供の頃遊んだことのあるやうな、カードに漫画を少しずつズラして一枚一枚描いて、後でパラパラと一枚一枚を指で弾くやうにして通して見ると、漫画が動いて見えるといふあの原理的なズレによる動きの創造です。この「原理的なズレによる動きの創造」といふことは、誠に安部公房の世界らしいと思ふ。

このやうに安部公房の発言を読み解いて来ると、最後に次の発言がある。

「そう考えてゆくと、人間の体内リズム……心臓の鼓動も呼吸もすべてリズムで成り立っているわけだけど……そくに「歩く」という行為ね、これは移動によって時間と空間を混合する行為なんだ。その「歩く」という行為に、もしかすると音楽衝動も還元されるのではないだろうか。」

そしてその後が続く、楽器と音楽の関係論を読むと、この作家は音楽もまた舞台の上で独立したものと考へてゐることがよく解り、なるほど、これが安部公房のものを考へる順序なのだといふことも理解されるのです。

「たとえば遠くの羊などを呼ぶための大きなラッパを考えて」見ると、一体誰が楽器を鳴らすのだ？といふ問いに対しては、このラッパから音楽が生まれたのではない、それは独立した音楽といふものから生まれたのだといふのが其の答へなわけですが、この場合それでは演奏者は何なのだ？といふ問に対する答へは上掲図と此の図に対する発言に既に現れてゐる通りで、演奏者もまた俳優と同じくニュートラルな文字通りの存在と化して時間と空間の交差点にゐなければならず、この訓練が演奏家の訓練であると考へてゐるのだと解ります。そして、だから、「音楽が音を出す道具を利用しているんだと思う」のである。

(2) 舞台と音楽

上述のやうに安部公房は舞台と音楽の関係性を考へてゐる。この場合、舞台の上で実に此の作家の此の音楽観を満たしてくれる音楽が、バロック音楽だと安部公房はいふのです。安部公房が音楽について発言してゐる全集中の資料には次のものがあります。備忘として後世のために列挙してをきます。全集の編纂の順序とは異なり順不同です。各自原文に当たり、ご研究下さい。

①反劇的人間：第六章 音楽とドラマ（第24巻、304ページから）

②効く音楽（第24巻、328ページから）：バロックとバッハの名前を挙げてゐる。

③演劇と音楽とーバロック風にバロックを（第25巻、350ページから）：
[舞台には]「不思議にバロックが使いやすい。なぜだろう。バロックというのは、あんがい、音楽のなかで、いちばん純粋な構造をもっているんじゃないか。純粋というのは、文学だとか、演劇だとか、美術だとかいった、音楽以外

の要素を含んでいないという意味。だから、舞台の上でも自立しやすいんじゃないかな。舞台には、言葉も、肉体も、美術も、ぜんぶそろっていますからね。音楽に肩がわりしてもらふ余地はないんだ。バロックというのは、ある意味で、もっとも音楽的な音楽なのかもしれないという気がする。極論すると、現代音楽の一部をのぞいて、バロックは音楽史のなかに築かれた純粹音楽のピラミッドだったのかもしれないね。」

④安部公房氏と音楽を語る [対談者] 安部公房 ドナルド・キーン：(第25巻、397ページから)：「安部 僕が芝居の中に音楽を使う場合、パロディというと言い過ぎでしょうが、イロニーというか、ズレの効果を考えます。それにはバロック音楽がいいんです。」

⑤リズムの思想 (第9巻360ページから)：「そこで私は最近、芸術におけるリズムの役割というものを考えはじめています。音楽やダンスや演技などでは、リズムはきわめて分かりやすい形であらわれているので問題はないが、そのリズムの根本は要するに、脳波による内的時間感覚と、「前庭器性空間知覚」とでもいうべき自己感覚や、関節やコルジ氏器官による姿勢ならびに運動感覚などの結合であり、その意味では一見リズムなどとは関係がなさそうに見える、美術のジャンルなどにも、そのままそっくり当てはまる法則なのである。たとえば抽象絵画などは、いかにも主観的なものに見えながら、やはり線状加速度と角性加速度、あるいは位置や転位の知覚の組合せといった、リズムの客観的法則に忠実に従っている。おそらくすべての芸術ジャンルが、このリズムの文法を土台にしているのではなからうか。しかもこの文法は、決して主観的なものでも独断的なものでもなく、言語と同様に、いやおそらくはそれ以上に、根元的でしかも普遍的なのだ。理論がとらえる新しいテーマは、リズムの文法による、まったく独自の世界ではないかと思われる。しかもそれは、思想的テーマと同様に、現実的でしかも客観的なものであるはずである。」(同巻、363ページ下段)

⑥ネチネチ、クチャクチャ、ベタベタ (第29巻、199ページから)：感覚とアナログ・デジタル変換の関係を論じてゐる。

⑦仮説・冬眠型結晶模様 (第7巻、77ページから)：四季の変化のリズムとヨーロッパの農民の日常生活にある「椅子の脊(せ)にはじまって、羊を呼ぶための笛、チーズの型、クワの柄、壺、衣裳、はては屋根や柱から家の外まわりと、生活をつつむ空間の隅々にまで及ぶ」模様を「冬眠型・結晶模様」と総

称して、「これら生活の様子は農民労働のリズムが空間に落とした影だったのです」と言つてゐる。生活にはリズムがあり、このリズムの影と変形の問題に言及してゐる。

⑧リズムの世界（第23巻、61ページから）：このエッセイは当時1970年大阪で開催された万国博覧会に出展された自動車工業館の企画に安部公房も参画してゐたことで此の作家の意図が自動車といふ工業製品と、社会を生命の有機体とみた場合のリズムの関係を論じたものです。：

「自然現象にリズムがあるように、生命にもリズムがある。生命にリズムがあるように、人間社会も、複雑で精な妙なリズムの組合せで構成されてゐる。自動車工業館のテーマを「リズムの世界」としたのは、自動車の機能が、現代社会を構成する様々なリズムの、とくに重要な欠かすことの出来ないリズムの一つだと考えたからに他ならない。」

この時の成果物に映画『一日二百四十時間』がある。

以上の引用による関係するエッセイや対談での安部公房の発言から、舞台と音楽との関係は明らかであるので、次はいよいよ音楽そのものに関する安部公房の発言を読むことにする。もう既に上述の引用でも明らかであるとはいへ。

（3）音楽とは何か

この発言を読むと、安部公房のゴミ好き、便所好き、糞尿好き、廃棄物好き、廃墟好き、といふ此の有用性の全くない打ち捨てられた物質と場所への偏愛は、普通には奇妙に見えると思ひますが、この作家の潔癖な感覚と結合してゐることが解ります。美は醜、醜いは綺麗などといふと、シェークスピアの戯曲の科白を連想しますが、このアイロニーは二人の戯曲家の間で共有されてゐる。もつとも、安部公房の此の非常に極端なるものの結合といふことによる体と社会と国家から排出された廃棄物への偏愛は、これら人体から国家といふ体までが一個の有機体であり、生命体であるといふ思想によるものだといふことが、上記「（2）舞台と音楽」でのリズム論に傾聴すると解ります。この総体にリズムが宿つてゐる。これは、そのまま安部公房の文章を書くときの文体論です。この生理的に体を決して離れない文体で、個人（『S・カルマ氏の犯罪』）から国家（『方舟さくら丸』）までを書いたといふことです。

さうして、別の視点、即ち音楽自体の純粹（デジタル音）と不純（アナログ音）の視点から、この見出しの元で論じてゐるのは、アナログとデジタルと、

依然として、感覚の関係です。インタヴューにシンセサイザーによる作曲のことを尋ねられて、作家の曰く、

「そして電子工学はとうとう楽器の仲間入りまでしてしまった。弦や管に比べれば、限定されない、より自由な音が出せるようになった。しかし、自由なかわりに、それ以前の不自由な楽器がもっている不純物というか、絵でいうマチエールのでざわりのようなものがなくなってしまった。」

このような電子音であるデジタルの効果と、デジタルには無い筈の抒情の効果について話が続きます。この論点は、安部公房の俳句論に通じてゐるので、必要に応じて此の作家の俳句論に言及しながら論を進めたい。

③抒情の効果

(続く)

もぐら文学賞合評会
(第一回)
芸太作『弱さ』

編集部

開催日時：2022年11月13日(日) 13:00から15:30

出席者：編集子ほか一名、計2名

対象作品：『弱さ』

作者：芸太

合評会講評：以下の通り。

安部公房の小説を規準・クライテリアにして講評がなされた。これはなかなか評者・応募者ともに辛いものがありました。安部公房の作品を規準にすると期待水準が高くなつて、あるいはなりすぎて、応募作への評価が低くなりがちであるといふ難点があるからです。しかし、これは安部公房の読者のための応募企画なので、それは其れとして、結果として相対的な出来の良し悪しで評価することで良いと思ふことにしました。

其れから、作者の年齢が19歳といふことの若さも議論をしたが、評価には入れないことにして、作品の質のみを問ふことにしました。これが公正な態度だと思ふからです。

A.I.氏の事前の評価は力作といふことで、これには参加者も同意です。以下、感想を箇条書きにします。

- 1。これはオチのあるコントであるので、これはこれで別に失敗作ではないが、しかし、やはりどうしても少し物足りないものを感じる。
- 2。安部公房の小説のやうに、葛藤の果てにもう一つの飛躍が最後にでもあればもつとよかった。つまり、
- 3。折角の奇抜な話者たる主人公と主人公の吸つてゐる煙草との会話の間に両者の強い葛藤があるとよかった。其れがない理由は、運動会の会場の禁煙ゾーンでの、運動会場の賑やかさとは隔絶した沈黙の場所での話なのですから、いつそのことこの場所を閉鎖空間にしてしまひ、煙草か話者が、いつもの安部公房の小説のやうに両者の葛藤の果てにどちらかの当事者が脱出するか、死んでしまふかといふ筋立ての方がメリハリがあつたのではないかと思つたからです。この小説の最後に煙草消えて、いつてみれば死んでしまふ様子ですから、その最後をいかすことになつたかも知れません。
- 4。これが、はまってゆく感じがしなかったといふ感想の出てきた理由ではないかと思ふ。しかし、

5。運動会会場といふ明るい賑やかな場所と喫煙所、其れも禁煙といふ強制的な空間の対比での話の運び方は、なかなかのもので、これが力作と評価される根拠となつてゐるとおもつた次第です。

6。煙草の煙にいはば五色を割り当てて、煙草の感情を表すといふ工夫もよく伝わりましたが、しかし、理屈として理解はできても、実感的な何かかう感覚として入ってゆくといふ感じがなつたのが惜しい。

7。この作品の合評会の後で、何かの資料を読んでみて、横光利一の『ナポレオンと田虫』を作者は一度読んでみるとよいと思つた。この短編はナポレオンと腹の上に巣食ふタムシとの対話ならぬ対話、相関のとれた二つの者の進展があるからです。実際にはナポレオンは腹の上に渦巻く田虫と話をする訳ではないので、そこが『弱さ』と異なりますが、さうであれば逆にこの『ナポレオンと田虫』の仕立てのやうに第三者を媒介者にして、タムシとナポレオンの関係を照射するといふ工夫もありえるなど、この投稿作には、と思つた次第です。さうすると奥行きが作品に生まれたかも知れません。横光利一のこの作品は青空文庫で読めます。リンクは：https://www.aozora.gr.jp/cards/000168/files/1080_42301.html

応募作品のダウンロードは：<https://docdro.id/z7nA4sb>

編集部までご感想をお寄せ下さい。メールは：eiya.iwata@gmail.com

日本一極国家論（続篇）
GAMECHANGE理論（13）

岩田英哉

目次

1. 前編
2. 後編
3. GAMECHANGE理論
 - (1) 古いゲーム・ルール：アメリカと中国の共通性
 - (2) 古いゲーム・ルール2：アメリカのゲーム・ルール：一般論
 - ①文化：無制限の大衆化・通俗化文化：「いつでも・どこでも・誰にでも」（例：コカコーラ、ジーンズ、コンビニエンス・ストア、クレジット・カード、ディズニーランド等々）
 - ②政治：自作自演の詐欺的言辞を弄する：世界普遍性を欠いたアメリカ土着の民主主義の他国への、謀略（自作自演）と軍事力を使つた強制
 - ③経済：道徳を欠いた国際金融資本主義、いはゆるグローバリズムといふ名前の共産主義経済の他国への謀略（自作自演）と軍事力を使つた強制

新ゲーム・ルール

対アメリカ帝国：

- (1) 新ゲーム・ルール1（アメリカ帝国向け）：一般論
- (2) 新ゲーム・ルール1.1（アメリカ帝国向け）：個別論
 - ①文化領域
 - ②政治領域
 - ③経済領域

対中華帝国：

- (3) 新ゲーム・ルール2（中華帝国向け）：一般論
 - ①支那とは何か中国とは何か
 - ②中国の経済の構造
 - ③中国の政治の構造
- (4) 新ゲーム・ルール2.1（中華帝国向け）：個別論

対ロシア帝国：

- (5) 新ゲーム・ルール3（ロシア帝国むけ）：一般論
- (6) 新ゲーム・ルール3.1（ロシア帝国むけ）：個別論

4. GAMECHANGE理論（日本篇）

- 4.1.1 国民にとって理想の政府とは何か
- 4.1.2 現行日本国憲法無効化論

Intermezzo：文明の衝突篇：：ハンチントン著『文明の衝突』からウクライナ問題を考察する

- 4.1.3 戦争空間領域分類論
- 4.1.4 日本国家軍事費用計算論
- 4.1.5 武器とは何か1
- 4.1.6 日本国家核ミサイル保有論
- 4.1.7 北朝鮮拉致被害者奪還論
- 4.1.8 日本駐留米軍退散論
- 4.1.9 日本中央銀行廃止論
- 4.1.10 尖閣諸島問題解決論
- 4.1.11 竹島及び北方領土奪還論
- 4.1.12 国体明象論（国体明徴論ではない）

4.1.6 日本国家核ミサイル保有論4

4.1.6.1 核ミサイルをどの国家から調達するか

最初に問題解決のための思考の原則を置いて本題に入る。これは他でも述べたことのある、私の思考原則であるが、一般性と普遍性があるので、国際的な問題の解決、即ち日本の国家の外交的問題の解決を、内政の延長として、図ることができるからである。この場合、内政の延長として外交問題を解決するとは、内政の問題の同時解決、場合によつては大きな改革を行ふといふことである。これは私が会社勤めをしながら知つた、組織・媒体・個人および組織内部・組織外部・交渉能力および経済力・政治力に関する力学としての相関関係図である。言語と組織論の視点からみると、国家と企業は、前者にある軍事力の保有を除けば、互ひに相似形を成してゐる。この認識の元に私の製作した「近代国家模型図」のダウンロードは：<https://www.docdroid.net/XEqFpBT/v12-xlsx>

思考の原則：

一つの問題の解決は、同時に並行して、複数の問題の解決でなければならない。

といふことを思考の論理原則として思考すること。**私の経験と観察では一石三鳥から最大一石七鳥までの同時並行的な国家組織的な問題の解決を図ることができる。**

この原則に則つて以前書いた書評の内容がそのまま此の論題である日本国家核ミサイル保有論にそのまま通用してゐて有効であるので、この書評を再掲して、その後、論点を結論としてまとめることにする。更に日本の政治家が日本の国家の手脚を縛り上げて拘束衣を着せて、みづから日本が凶暴なる精神病分裂病患者であるかの如くに取り扱つてゐる原因である非核三原則に抵触せずに、日本の国家が核ミサイルを保有することができるか其の解決策を例題の結論の一つの試みとして提示する。勿論こんな屁理屈をいひ、手間隙をかける時間はないのであるが。いつてをくが、私は日本国家の核ミサイル保有を論じて、誰かを又誰をも説得するために論じてゐるのではない。精神分裂病の自覚のない人間を言葉で説得することなどできるわけがないからである。もし暴れたら、国民が自国を護るために拘束衣を着せるべきは、その政治家である。政治家の精神分裂病の症状とは、言葉でいふことと行ひが矛盾してゐることに自覚のない、即ち反省能力の欠落した政治家のことである。今の日本の国は精神病院の社会である。

以下、本格的に核ミサイルの設計・開発・製造・配備・保守までの工程の確立と、実践配備に至るまでの暫定期間を、中国・北朝鮮・ロシアからの軍事的且つ政治的圧力を凌ぎ、上記の工程確立と核の実戦配備の第二段階までの時間を稼ぐために、以下の論をなすものであることを了とされたい。

「西村幸祐/ロバート・D・エルドリッチ共著『中国侵攻で機能不全に陥る日米安保』を読む」と題した書評がそのまま本題に適用できるので再録する（『私の本棚（39）』もぐら通信第154号より）。

この書評にて私の提案した核ミサイルを有力な他国より購入するといふ案は、暫定的な当面の最初の期間に適用する案であつて、日本が核ミサイルの開発と配備のできるまでの間の時間を稼ぐための防衛上の一策である。この一策の採用の時には既に其れ以降のプロセスが確立してゐることが前提である。

この題名の意味は、中国は必ず台湾を侵攻して戦争を始めるが、このとき日米安保条約は役に立たないといふ意味です。その理由が二国の国内と国外の理由によつて役に立たないといふのです。即ち、この戦争はアメリカには遠いが、日本には近い戦争なので、圧倒的に日本の利益が損はれる結果になるといふ結論が題名になつてゐる。さう日本人の読者である私には読める。何故戦地からの地政学的な距離の遠近が問題かといへば、私のいひ方によれば、更に何故なら外交は内政の延長だからです。それでは、それぞれぞれの内政の問題が何かといふことによつて、この日米同盟の有効性が決まる其の函数だといふことなのであり、その問題と原因分析と解決策がそれぞれの立場から対談されて、提出されてゐる。最後に二人によつて台湾侵攻に対する解決策が具体的になされてゐないので、読者たる私が提示します。

この対談を理解するための以前と以後を分ける判断の規準、即ちパラダイム・シフトの決定的時点は、トランプが大統領に就任した2016年です。これがパラダイム・シフト、またミシェル・フーコーのいふエピステーメの転換点であり、「以後」が花田清輝のいふ転形期である今日であれば、このことが自明の前提として両国関係に於ける問題が上記の枠組みで議論されてゐる。

それぞれの国の問題を使用されてゐる闇といふ隠喩（メタファ）を此処で使へば、対談で問題として列挙されてゐるのは、アメリカの闇と日本の闇の二つの闇です。その闇を形成する事項は次のもので、これは日米共通です。この場合、国家理解の理解とは当該国の政治と経済と文化の総体を意味します。

A 共通事項

- (1) マス・メディアと大手ITプラットフォーム提供企業
- (2) アメリカ国民の意識と対日国家理解の貧しさ

- (3) 日本国民の意識と対米国家理解の貧しさ
- (4) 中華謹製武漢ウイルスの流行
- (5) 中国に対する根拠のない幻想
- (6) 中国による対日米工作と侵略の深さ
- (7) 大学の極左・共産主義化の酷さ
- (8) 南シナ海と東シナ海への中国への侵略

今日米で利害の共有できてゐるのは、上記(8)であることが判る。要するに軍事事項である。従ひ、日米同盟が表題になつてゐる。それから上記(4)と(5)(6)(7)もまた両国の特に反省事項である。

両氏による個別の問題の指摘は次の通り：

B アメリカ：

- (1) 産軍複合体と、今やディープ・ステートと呼ばれてゐる国際金融資本左派(ユダヤ左派)
- (2) 民主党と共和党の対立及び共産主義・グローバリズムと保守主義の対立：問題はこれらの二項対立は見かけであつて、政治的対立は横断的であつてまだら模様を輻輳してゐるといふこと。
- (3) 草の根保守の歴史的放置
- (4) 貧富の差の極端な拡大

C 日本：

- (1) 日本の保守の不勉強。特に上記Aの(2)と(3)。これを悪化させるのが(4)の大手マス・メディア。
- (2) 非核三原則といふ幻想
- (3) この幻想の上に成り立つてゐるやうに恰も見えてゐる核の傘といふ仮想現実。映画『マトリクス』の世界。
- (3) 現行憲法の問題：日本人による起草ではないことと、憲法第9条の戦争放棄の問題
- (4) 平成以来30年続いてゐるデフレ経済
- (5) 自民党を含む与党の極左・共産主義化

以上が二人の対談の論旨であり骨子であるが、ここで私の考へを付け加へたい。哲学思潮と政治思潮の相関的な流れのことです。前者のキーワードが後者のキーワードになつてゐる。

(1) 政治

1971年にキッシンジャーの訪中と米中の関係の深化の開始。キーワードはア

アメリカは支那にengagementするとキッシンジャーの言つた此のエンゲージメントです。これが1970年代以降の対中国関係でのアメリカの政治的ポリシー（engagement policy）のキーワードです。

（2）哲学

哲学のengagementは20年早く、サルトルがengagementといつて、これはフランス語なのでアンガージュマンといはれて日本で流行してみた。これが戦後の国家ではなく個人としての日本人のキーワードである。アメリカでもサルトルが同時に流行してみたら、この言葉はトランプの登場までアメリカ国家とアメリカ人のキーワードであつた筈である。日本の国家はアメリカのやうには対中政策をengagementとは捉へてみなかつたことが将来に禍根を残すであらう。恥ずかしいことに、哲学のない筈のアメリカに哲学があり、哲学のある筈の日本に哲学がなかつた。さて、トランプ「以後」のキーワードは何か。

（3）日米共通の過ちは、このengagementとは経済的なengagementであつて、これを国家安全保障よりも優先させたといふことであることは今や自明である。といふことは、

（4）これからの日本の対米・対中の外交方針はengagementではなく、disengagementであるといふことが明らかです。これについては別途連載してゐる『日本一極国家論』で論証します。

さて、以上のことを前提に第四章とエピローグと題した最終章が書かれてゐるが、それぞれの章の題名は次の通りである。

（1）第四章：中国侵攻、絶体絶命の日本

（2）エピローグ：米軍基地を自衛隊の管理下におけ！

さて、第四章の懸念が現実起きた場合に備へてエピローグでは「米軍基地を自衛隊の管理下におけ！」と読者に呼びかけてゐるわけであるが、しかし、具体的な方策が提案されてゐないので、私が二人の代わりに最大最強の解決策を提案したい。これによつて日米の各国内事情あるにも拘らず、軍事同盟上の問題は日本の憲法問題も含めて一挙に同時に解決を図ることができる。それは、

（1）北朝鮮から核ミサイルを購入し、その対価の支払ひによつて拉致犠牲者を全て買ひ戻すことである。これは16世紀に豊臣秀吉がイエズス会の宣教師が日本人の男女を奴隷として海外に売り払つたことに怒り施したやむを得ざる解決法になつたものです。そして、核ミサイルの弾頭の照準をまづは平壤に、次に北京に、三つ目に今核保有の動きを開始した韓国のソウルに合はせて輸入後直ちに配備することである。

まだまだ良いことが日米同盟に起きるが、これらについてはまた別に論ずるとして、北朝鮮以外に日本の利益に対する優先順位をつけて上位から核ミサイル購入相手国の名前を挙げれば、次の通りである。

- (2) イスラエル
- (3) インド
- (4) アメリカ

4番目に名前を挙げざるを得ないアメリカは本当に日本の国の軍事同盟国であらうか？本当ならば一番最初に購入先として私たちは名前を挙げるべきものである。何故軍人も含めて政治家も官僚も国民も核ミサイルの購入といふ発想が欠落してゐるかといへば、既存の枠組みの中でだけ考へてゐるからであり、パラダイム・シフト、エピスマーター、転形期の意味を自分が個人として生き延びる方策を巡らすことが、非核三原則その他「C日本」に列挙した日本固有の怠惰なる理由によつて思ひつかぬほど想像力が貧しくなつてゐるからである。あるいは枯渇してゐるといふべきか。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。鎌倉仏教の開祖たちに蘇つてもらひ、日本仏教の布教を是非お願い申し上げたい。何故なら、この日本の国は政治家以下、国家による認識と理解とともに、国家による所有といふ概念がすっぽり抜け落ちてゐるからである。これが何故第9条問題解決「以前」に新しい憲法の制定が必要かといふ一番の理由である。穢れとして受け取つた現行憲法の穢れを大祓ひする仕事は神道家にお願いしたい。神道家の使命を果たしてもらひたいのである。いふまでもないが、国家格の祝詞である中臣の大祓詞の第二段落を復元した上で奏上してもらひたい。何故なら、この天津罪と国津罪の罪の列挙の方式は、今の言葉でいふネガティブ・リストであり、この発想がお祓ひに関して日本人の意識と感覚から欠落してゐる原因は明らかに、このネガティブ・リストを消してしまつた粗略な大祓への扱ひにあるからです。それ故に日本の軍隊は、戦前戦後に無関係に、精神の問題として、此の改悪を不埒傲慢にも神社に内務省が命令した大正三年・西暦1914年以来精神の世界からしてポジティブ・リストで戦ふといふ愚かな戦さを強ひられて来たのです。この国家的犯罪といふべき過ちを反省して、神道家が大祓を旧に復することのない限り、自衛隊の問題も憲法第9条の問題も根本的に解決することはない。これが、神道視点からみた憲法第9条問題の本質なのです。即ち、神道家自身による犯罪的といふべき怠惰です。不作為の罪だ。これを憲法第9条は具体的に醜怪に示してゐるのです。だから、これはGHQだとかアメリカだとかよその国に起因する問題ではない。日本の国に起因する日本の国自身の問題なのです。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。。。

(神道の問題を解決するために、何故親鸞聖人が必要なのであろうか?)

サンチョ・パンサを求めて

(24)

批評とは何かII

岩田英哉

一體世の多くの作家達が昔乍らの感傷の夢を見てゐる時に、近代認識論の上に、己れの制作理論を築かうといふ野望は、現代の作家にとって正當な野望ではないか。又認識論と技巧論を一丸にしようとする自意識の冒険も相手にとって不足はない難問題ではないか。

(小林秀雄『アシルと龜の子 I』昭和五年・西暦1930年5月『文藝春秋』誌)

この論題は、既に一度単にローマ数字の付番なしの同じ題の元に書いたもので、この既にしたものを「批評とは何か I」とし（もぐら通信第96号：<https://www.docdroid.net/ftVRgC4/document>）、この同じ題を此処にIIと呼ぶことにする。あるいは、III もIV もこれからも生まれるかも知れないが。

さて、私にとって批評とは何かと問はれれば、今、次のやうに答へる。これはまだ私が世間といふところにゐて毎日朝夕の電車に揺られて会社といふところにゐて仕事をしてゐた時代の話であるが、これは随分と時間を掛けて考へて来てゐて、その間何度も折に触れて、それがたとへ仕事であつても道を歩いてゐても、繰り返しが胸を去来した想念なのである。勿論、いつも念頭にあつた批評家の名前は小林秀雄といふのである。

批評とは、釣つたばかりの生きのいい、そして其れも旬の魚を捌（さば）いて（これには市場で魚の生きを見た瞬間に判断できる能力が必要である）三枚に下ろした魚を、さあ、これから喰はうかといふところで息を止めて凝（ぢ）つと見詰めた後に、そのおろしたばかりの旨さうな刺身を食することを積極的に諦めて、よしまた池にまた海に戻してやらうと水の中に放すと、あれまあ魚は再び生き生きと泳ぎ始める其のやうに作品と作家の両方を一挙一氣に居合い抜きで料理することである。魚は何も気がつかない。勿論、生き生きと魚の泳ぎ始める当の池も海も、読み手の中に存在してゐる水の世界である。水の世界とは何か、といふ問が更に其の先にあるだらうが、此処では今は触れない。私も読者の一人なのである。もつとつづめれば、

批評の定義

批評とは、釣つたばかりの生きのいい魚を捌いて、その後また水に放してやると、魚は何も知らず、生きて泳ぎ始めることを現実ならしめる精神の働きのことである。

いふまでもなく、私の作者への尊敬の念と作品に対する敬意を払ふことが、私の抜

き難ひ、不可欠の、やむにやまれぬ、生活の中での無意識の大きな前提である。さうして、その作者の人生を文章の行間と文字の向かうに観ながら、私自身を発見するに至るのである。だから、この魚とは、私自身のことなのであり、自殺せずに死ぬこと、即ちそれが私が「死せる魂」として生きるための技術なのである。

批評とは、無私を得る道である。

これは小林秀雄の言葉であり道であるが、私にあつては、文学の世界で繰り返し断崖絶壁から身を投げることであるのは、中学生の時に担任の美術の先生が夏休みに奈良に行つて写真機で撮つて来る数々の仏像の中にあつて、休みの明けた後、私たち幼い生徒たちに幻燈のスライドといふ小さな紙枠に嵌つたフィルムの美しい数々の仏像の陰影に富んだ画像が幻燈機からの光線に放射されて白い幕に映されてゐる見せてくれる仏像と仏像の射影の其の隙間に私を掴んで放さなかつたのは私の眼に映つて焼きついた奈良の法隆寺の玉虫厨子の側面に描かれてゐる聖徳太子の捨身飼虎図なのである。これが、私にとつての批評である。

この、我が身を襲つた衝撃が、私にとつての批評の規準・クライテリアである。この厨子の絵は私の全身を強い力で心臓ごと一瞬で握つたのであつた。この力に従ふことが、私の無私を得る道であり、小林秀雄の此の言葉と批評の文章は、その精神と相俟つて、私にドイツ語でいふBahnbrechen/バーン・ブレッヒェン、即ち揺るぎのない定まつてゐることだけは確かであるが少しも眼には見えぬ初めての道を、私の前に打ち開いた。このドイツ語の慣用句は平凡な慣用句である。従ひ、普通通りに、そして、そこは曠野であつたが、確かに道はあるのであつた。この先生の名前は田中宏といふ、その時二十代の後半の青年で、中学に入つて最初の一年間私たちを受け持つてくれて一年後にフランスヘシベリア鉄道でヨーロッパのパリへ行つてしまつた。そして画家として成功を収めて日本に晩年帰つて来て、晩年といふべき時代に湘南のお宅を尋ねると、壁にかかつてゐる大きな絵がフランスで授かつた銀賞の其の絵であつたが、素晴らしい絵であつた。具象でありながら抽象であつて、その境目は色彩同士の重複と衝突なのであつた。だから、色彩の面と其処に御本人も棲みついたニースの海の青・azurでの色で構成された絵画であつた。画家の眼力は恐ろしいといふことを私に教へてくれた画家である。画家は人の見ないものを一瞬で観る。同じものをみても全然違つたものを一瞬で観る。言葉を聞いても同じことであつた。私の繰り返し口にする当時も考へ続けてゐた概念といふ言葉を聞いて其の途端に私が何をしようとしてゐるかを一瞬で、そして私の未来まで見抜いた。ヨーロッパの歴史に詳しかつた。さうでなければ生きて行けないのだし、其処でよりよく生きようと思へば、少なくとも西欧主要各国の近代史位を知らなければ絵も描けないのだ。それが戦乱の多いヨーロッパといふ所です。日本でも同じ筈だ。

さて、これは私固有の独創的な、聖徳太子を介した、小林秀雄体験です。小林秀雄の批評は、読者に決して此の批評家の真似をいかなる点でもゆるさず、人それぞれに自分独自の人生を生きることを強ひる。しかし、その人の精神を活かすとは、さういふことではないのか。さう、私は思ふ。だから、信者をつくつてはならないのだ。師なく弟子なし。独学こそ大事といふことである。この最後の批評の一卷『本居宣長』には江戸時代の独学者が複数人登場するのは小林秀雄自身が独学者だからです。

芭蕉のいふ、古人を求めず、古人の求めたるところを求めよ、といふ言葉は時代を超えた真理です。たとへ、どんなに生きた人間同士は愚かで、互ひに喜んで誤解しあひ、偏見を持つことを正しいことだと盲信して生きてゐるにせよ。だから、批評とは、時代に沈潜して古典を読むことなのである。小林秀雄は、また従ひ何処かで、唐の詩人の言葉をひいて、海沈は易しいが、陸沈は難しいといつてゐる。海沈に死ぬ人の記念碑は立たうが、陸沈で死ぬ人の記念碑は立たない。何故なら、無償とは無名といふことであり、当然に無役・無能の人だと愚かにも他者におもはれ続けて一生を終える人だからである。これは一体正解であらうか誤解であらうか。此のやうなことを思ふにつけ、私の思ひ出すのは、兼好法師の徒然草の第13段の二行です。

ひとり、燈のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰むわぎなる。文は、文選のあはれなる巻々、白氏文集、老子のことば、南華の篇。この国の博士どもの書ける物も、いにしへのは、あはれなること多かり。

兼好法師のいふ事は、一言でいへば、読書とは古典を読む事であり、古人とは死者である人と二人きりで友として親しく対話することだと。そして、此処からは私の理解であるが、さうであれば、文字を書くといふ行為もまたみづから死を選ぶ行為に他ならず、「死せる魂」として死者として「見る世の人」を友とすることである。さうであればこそ、文章を読む行為が成り立ち、読書の最高位のものである批評が成り立つ。批評とは読書の最も高度なものである。とすれば、逆にいへば、「見る世の人」も、かくして、既に死者であるか、または半ば死者なのである。如何。結局、人間は生きてゐる間にみづから思ふことを何も言葉でいふことなく「見ぬ世」へと逝つてしまふのである。何といふことであるか。だから、二十歳に読んだトマス・マンの『トニオ・クレーゲル』の最後にいふ次のリザヴェータ・イワノーヴナ宛の手紙の一節がいつまでも心に残つて止まないのだ。拙訳します。今思へば、批評といふ仕事は「見る世の人」の只中にゐる営業マンの仕事に大変よく似てゐる。 Everyone is in sales. これはアメリカのマーケターたちの慣用句であつて、アメリカ人の慣用句の中でも私の好きな慣用句の一つである。批評とは自分を売ることである。一体、それでは、誰に買つてもらふのだ？勿論、アメリカ人たちは虎に喰はれるなどとは露考へてもゐず想像もできないのであるが。だから金のために節操



を売つてゐる奴もゐるのだ。

【原文】

Ich schau in eine ungeborene und schemenhafte Welt hinein, die geordnet und gebildet sein will, ich sehe in ein Gewimmel von Schatten menschlicher Gestalten, die mir winken, dass ich sie banne und erlöse: tragische und lächerliche und solche, die beides zugleich sind,-und diesen bin ich sehr zugetan.

【和訳】

私は、そもそも未だ此の世に生まれぬ状態にありながら、しかし凶式めいたものである世界の、その中を覗き込むのですが、この世界は御願ひだから形を造つてくれと云つてゐるので、そこで人間たちの姿の影また影で犇（ひし）めいてゐる中をさういふ次第で覗き込むと、影たちは、自分達を其処から強い力で有無を言はせずに追い払つて外に出して、救つてくれと合図を送つて来るのです。つまり、その影たちといふのは、悲劇的で且つ微笑ましいもので、そしてさういふものとして両方であるものなのです、さう、といふわけで、かういふ影たちのために悦んで身を捧げるのが、誠に私の仕事といふわけです。

これだけの批評についての言葉を、若きマンも愛読し没頭して読んだ哲学者ショーペンハウアーは一言で次のやうに言つてゐる。

世界を一冊の書物として読む。

しかし、これは遅くとも古代ギリシャ時代からのあのヨーロッパの地域の思想の、脈々と受け継がれて絶えぬ潮流であることを私が知つてゐるのは、プラトンの国家篇に私は最初に見た此の思想の同じ言葉であるからであるが、次には17世紀のデカルトの『方法叙説』に、また同じ時代のドイツのバロック小説『阿呆物語』の表紙に、19世紀にはショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』に、上記の一行を、20世紀には此の私がさう言ひ、21世紀にも私がさう言つてゐるといふことから、この文字と書物と思想、即ち世界を一冊の書物として読むといふ考へ方、この世界解釈であり世界認識であるものは、連綿と地域を超えて受け継がれてゐるのである以上、22世紀にも23世紀にも、そしてその後も、人間が地上に生きてゐる限り、さうであらう。何故なら言葉の意味が差異である限り、意味を求める世界は差異であり、意味を放擲するナンセンスのことも含めて、つまり無とか空とかいふことも含めて、世界は差異であり、意味といふ差異の意味即ち価値は等価で遍在するのは、差異を求めて等価な連続量として差異の世界を



流れ求めて移動する貨幣・moneyと同じ理由によるのである。といふことは、経済と金融の世界も一冊の書物として読むことができるといふことを意味してゐます。即ちチョムスキーの求めた普遍文法によつて世界経済を一冊の書物として解み解くことができる。さうであれば、政治もまた同じではないか。如何か。前者を私は言語経済学と名づけた。後者はこれからの試みである。完成したら言語政治学といふ名前になる筈である。さて、話を続けると、ドイツのバロック小説『阿呆物語』の表紙を以下に。これが世界を一冊の書物として読むことの、17世紀の三十年戦争の時代のドイツ人の描いた具象画です。



人間はこんな化け物である。角まで生えてゐるではないか。化け物が世界といふ書物を読んでゐる。これは17世紀の絵であるが、21世紀の今も変はらないのである。この化け物の足下には、この化け物が被つては捨てた幾つもの仮面が捨ててある。

最後に玉虫厨子の捨身飼虎図を読んで如何か。読むとはかくして、自分の人生を読むことであると知るので。これが批評です。即ち、我が身を捨てて虎に喰はれること。しかし、この場合、虎とは何か？これに答へることが批評である。さう、私は思ふ。批評とは我が身を喰らふ虎になることである。と、このやうに言ひ換へてみると、この虎は、私の身内から出てくるのか、それとも外部からやつて来るものか。まあ、私もこれ位の修辭は使へるやうには、何とか、なつたといふことである。これを人間の成長といふのであろうか。私は言はないと思ふのである。



聖徳太子が落ちて行く、この姿に私は間違いなく美を感じたのである。たとへそれが聖徳太子であれ、インドの釈迦の前世の薩埵太子であれ、この世での人の名前のことは別にして。

そして、この聖徳太子が服を脱ぎ、木にかけて、半裸体で落下するその姿に憧れ・エロスを感じたに違いない。死ぬことが全く確実である男の半裸とはいへ、その裸の露出した身体である。これが男女の性愛に等しい男の姿だとは、子供の私にはエロスと死への憧れとしか感得できなかつたわけだが、それが長じて後の性愛への憧れだとは、今ならばいふことができる。私が生まれ変わるための女性といふ私の半身の性である。何故なら私は既に半身であるから。従ひ、死ぬことは転生輪廻を意味してゐることになる。性愛の交換とは死を求めてといふことになる。従ひ、この女性はいつも巫女の性格を濃厚に持つてゐることになります。私の経験では例外なく、さうであつた。さうして神話的な構図にあつて私を、これも例外なく、閉鎖空間から脱出するのに力を貸してくれ、私を外へへと導いてくれた。ゲーテの場合ならば同じ契機はファウスト物語の最後にある有名な一行とならう。

Wiki : 玉虫厨子 : <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8E%89%E8%99%AB%E5%8E%A8%E5%AD%90>

ことのついでに、もう一つマンの同じ作品の別のところで、要するに、文章を書くことは、自分の才能を捨てることである。と、マンは言つてゐる。これが、この「批評とは何か」の第二回目の締め言葉です。この才能といふ言葉はドイツ語でGabe・ガーベといつて、唯一絶対神の與（あた）へ給ふた能力のこと、単にいふ小賢しいといふと言ひ過ぎだがしかし其のやうな才知として役立つてある一藝に秀でたといふ意味のtalent・タレントではない、人間に與へられた、そして生まれ付きの、素質としてある最高の能力のことである。マンは小林秀雄と同じことを述べてゐる。もつとも、マンの筆は、作家に詐欺師といふ言葉を敢へて使つて準（なぞら）へて、「見る世の人」には、即ち作品の読者には、些か誤解され易い書き方をしてゐるのではあるが、トーマス・マンらしく。

さうして、詩人ならば一体以上述べた同じことを如何にいふか、その好例を河上徹太郎の『有愁日記』所収のマラルメ論「マラルメの完璧と異端」から引用して、批評とは何かの二回目を、いよいよ、閉ぢることにする。彼とはマラルメのことである。

「彼はいふ、「世界は一つの美しい書物を書くために存在する。」

かうして、17世紀のバロック様式とともにある「書物としての世界」といふ世界観は19世紀の此のフランスの象徴派と呼ばれる詩人たちの中の一人に受け継がれてゐるやうである。

さうであれば、18世紀にもヨーロッパに、この思想の継承者が、藝術範疇と個別言語によらずに、ゐた筈であり、20世紀前半にもゐた筈である。と、このやうに抜けがないかと継承の穴を探してみると、20世紀前半にはフランスの哲学者ジャック・デリダがゐる。この哲学者の、彼はセッション・sessionと確か呼んでいたと思ふが、しかし英訳して文字に起こしてくれた其の弟子であるBarbara Johnsonの彼(か)のセッションを読むと、それは講義に他ならず、もしそれが講義ならば、セッションとは一方的な話をするのではなくて、聴衆が此の男の話の流れと一緒に乗つて意思疎通のできる話し方を、相当に高級な話であり話し方であるのだが、さういふ配慮の元に成り立つてゐるspeechだからであらう。あるセッションにBookEndと題したものがあつて(これは書物を並べて一つにして挟むものだ)、これはデリダの世界観の最もよく分かるセッションの一つです。日本の専門家がいつも西欧の思想を如何に歪めて輸入するののかについては論ずるだけ時間の無駄である。このアフリカ大陸の北辺、地中海に面したアルジェリアで生まれ育つた男も、フランス語の教育の中で、間違いなく、明らかにデカルトの精神を受け継いでゐるのだ。明らかにといふ意味は、デリダの論理展開が言語の本質に即して常に再帰的だからです。

かくしてデリダは、デカルトと同じ再帰哲学者なのであり、従ひカントから大きく枝分かれした俗にいふ「生命の哲学の系譜」の哲学者であるが、さて、その言ふ、

世界は差異である

といふ世界観については、このフランス語の差異は英語でいふdifferenceであるから、かうして、日本列島の原住民たちは、またしてもデリダの専門家の差延といふ誤訳によつて、頭が混乱してしまひ、ポスト・モダンの此れが哲学だなどと鼓吹されると途端に盲(めし)ひてメクラになり、ものが見えなくなつて、西欧の共産主義者たちの手玉に取られて(カント以後のもう一つの分岐はヘーゲルに始まり、マルクス、フランクフルト学派と繋がる共産主義の系譜である)自国の命運を外国に売つて恥じない売国奴になるのだ。日本語売国奴と呼んでも一向に差し支へない。

問：一体どこのどいつがデリダはポスト・モダンだなどとはざいたのだ？

答：それは化けの皮を被つた共産主義者である。



ジャック・デリダの同様にセッション集成である著作一冊の題名になつてゐるDisseminationといふセッションがあるが、これは日本語で訳すならば、種播きといふ意味であるが、ある訳者が、散種と訳してゐて、その本を手にとることなく、背表紙のこの訳語を見ただけで買ふ意欲が一瞬で失せてしまったことがある。この散の文字を採れば、アメリカ大陸で農夫が小型飛行機に乗つて大量に種を空から散布して撒き散らすやうな大雑把な、日本人の水田耕作の細やかさとは縁遠い、まきやいいだらうといふ彼の地の農業の風景を連想するが、もはや今の40代以下の哲学研究者には漢字の読み書きができないのだと知つた御粗末の一席である。やまところにて、たねまきとやくせば十分であり、漢意（からごころ）ならば、種播き、漢語に仕立てるならば、やはり播種・バンシュであらう。あるいは、撒水の撒でも落第である。かくも日本語訳は如何にもあればあれ、BookEndと共に、私は此のDisseminationが好きなのである。

これらのセッションを読むとよくわかることは、デリダは世界を一冊の書物として読んでゐるといふことである。実は日本人も同じことを論理としては太古・古代以来して来たのであるが、だから文字の輸入の時に古事記・日本書紀・万葉集の三大民族原典が生まれた。だから、文字が無くとも、当たり前前のわたしたちの永い永い縄文時代以来の生活であつたのであるが、これは別に稿を改める。だから今も縄文紀元なのである。

ジャック・デリダの概念化の能力が如何に凄まじいものか。私は足元にも及ばない。しかし更に思ふのは、デリダは一神教のキリスト教圏に生きてので、かくも激しい言語能力の発揮を強ひられたが、他方、私は日本人なので、太古・古来、世界は差異であるからには、その激しさの落差の無い分だけ、のんびりとしてゐられたといふことなのである。これが間違ひなく、日本列島の上で自然と共に、自然の一部といふ自覚をもつて生きてきた私たち日本人の性格の穏やかさの根拠であり根源にある本来の自然の状態なのである。宣長ならば、然（し）かあるヒトのモトのサマ、といつたことだらう。いふまでもなく、『縄文紀元論』にて繰り返し述べたやうに、そのやうなヒトは、お祓ひを受けて穢れを祓はれて再度メビウスの環をムスビ・ムスバレて其の存在の交差点でカミになり、時間の中ではミコトと呼ばれて、常世に名前を残してゐるのです『古事記』『日本書紀』『万葉集』を読んでご覧なさい。

この話は尽きない。



散文思索塾

(1)

散文とは何か

岩田英哉

何故、こんな塾を誌上に設けたか。それは、雲の上より見てみると、余りに下界に氾濫せる文章は、その音声であるYouTubeの色々なチャンネル数多（あまた）あれども、どれもこれも少数の例外を除いては、さういつも少数者は例外なのである。どいつもこいつも、仕様がねえなあ、もつときちんと筋の通つた日本語を話せよ、書けよ、喋れよと、段々と腹が立つて来て、怒り始めた吾れを知つたからである。私は遂に在日日本人であるといふ自覚に至つた。この私塾、否、紙塾は、そのやうなお喋り屋さんたちのために、まづ頭の中で日本語で正しい散文を自分の言葉で作りなさい、作文しなさい、それからそれを口から音にして出さなさいといふことの実現のための塾なのである。これが出来たら、あなたは英語も何語も楽々と読め書き話せるやうになります。従ひ、この紙塾は半ば以上は、私個人の精神衛生のために書いてあるのだ。といふことで、私の責任の分界点は、あなたがあなたの文章を音に出して文章を発声する直前までで、これ以前を此の紙塾では伝へたい。

さて、最初に散文とは何か？であるが、これに対するにどこの国のどの言語にあつても共通する普遍的な分類は、散文と詩文といふ分類です。この諸国諸相を比ぶれば、どうやらどの民族も例外なく歌を歌ひ、詩を詠み、詩を書くものらしい。だから、人間の最初の言葉は調子のついた旋律のあり韻律のある詩文であつたのだと私は考へてゐます。もつといへば、超越論の観点からの言語の発生は、世界は差異でありますから（第一項）、繰り返しの音の発音、即ち、人間の言葉でいふならば、ドモリ・吃音が、言語の発生なのです。今この問題に深入りせず、私の結論だけを示して、本題を続けます。私の結論を。

花鳥風月を歌へば、それは詩文であり、これら自然を歌はずに何かを文章にしよ
うとすれば散文になる。

今この結論に至つた全体をマトリクスにしましたので、ご覧下さい。この一覧表は、あなたの思考のマトリクスでもある。此処では、思考の総体を思索と呼ぶことにします。思索は思考の上位概念、思考は思索の下位概念といふわけですが。これは好き勝手に上下関係にしたのではない。思索の索の字があるので、思考の道筋が索条、即ち玉の緒、即ち連想連鎖の索を求めることであるので、そのことを承知の上で思索を思考の上位概念、思考は迷ふこともゆきつ戻りつもあらうから思考を思索の下位概念としたのです。この論理で、矛盾の出るところまで押し進めて論理を展開することにします。もし矛盾が生じたら、問題は常に次の3つで

す。

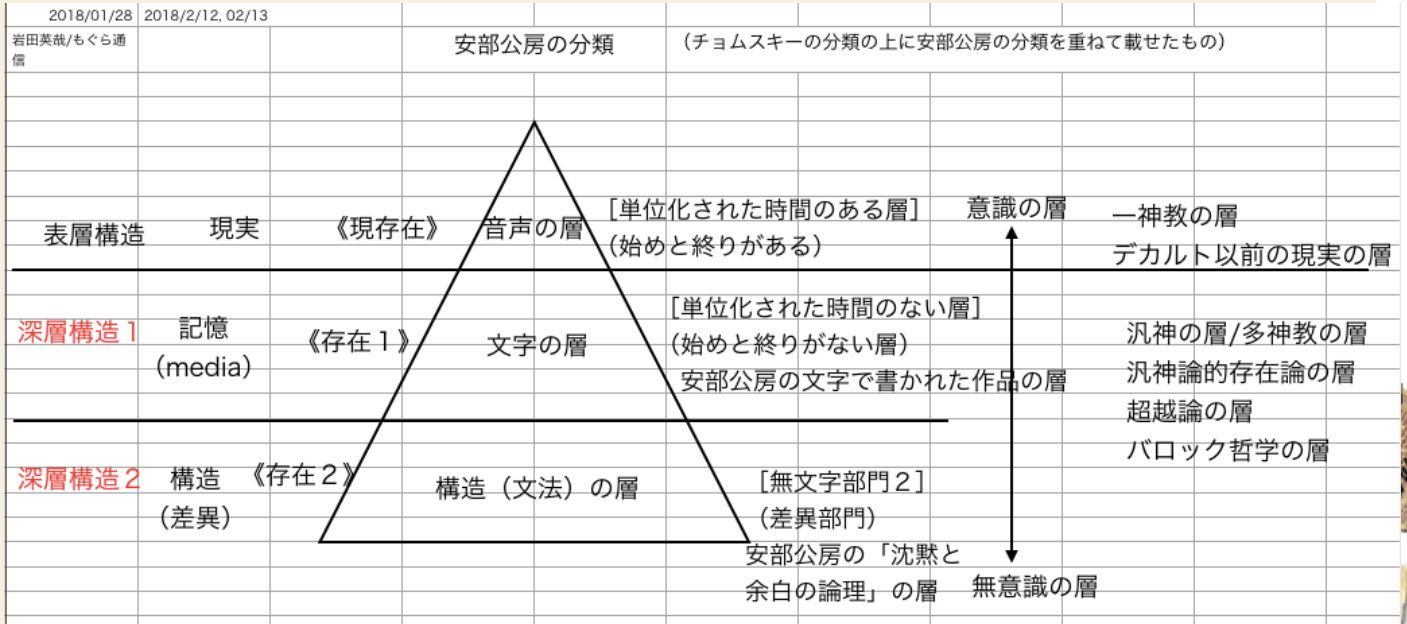
- (1) この論理の適用の限界にきたといふこと (適用の問題)
- (2) この論理がそもそも間違つてゐて、その主題について、最初から考へ直さねばならないといふこと (根本の問題)
- (3) この (1) と (2) によつて新しい発見があるといふこと

さて、以上のことを前提にマトリクスを掲げます。名前は「散文思索塾の基礎マトリクス」としました。「散文思索塾の基礎マトリクス」のダウンロードは：
<https://docdro.id/Uer35hq>

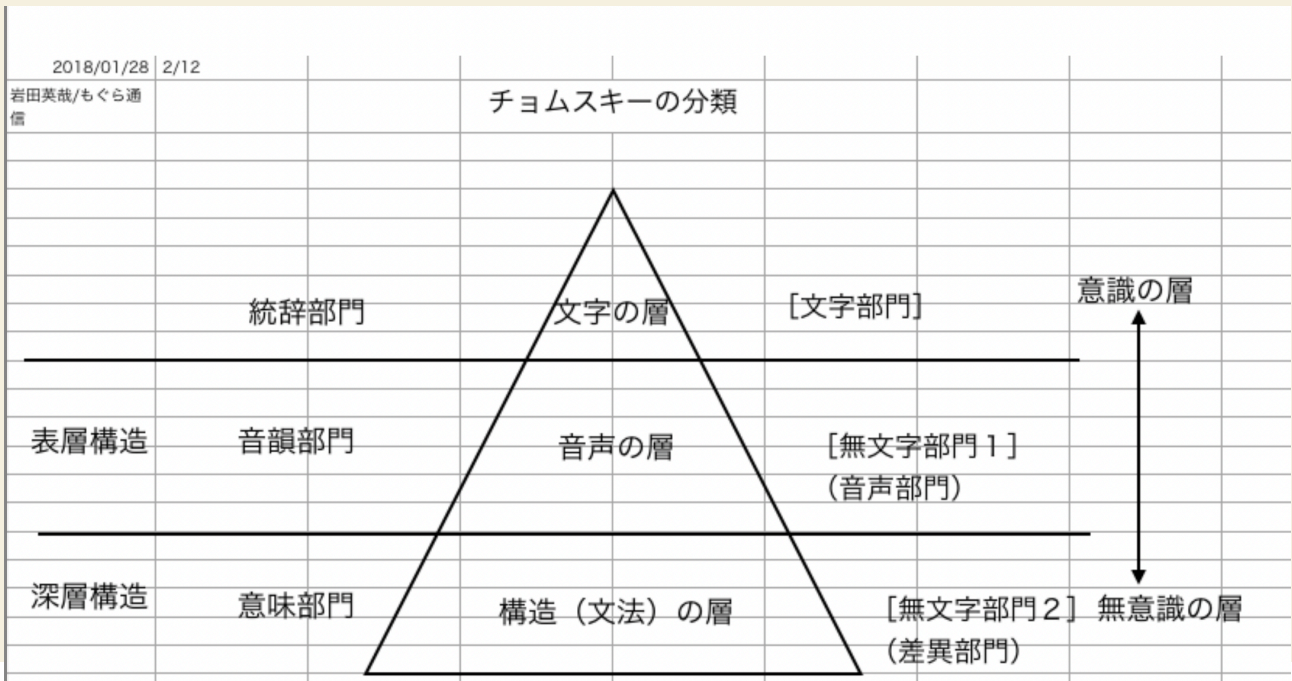
2022/11/13 eYa iwata		散文思索塾の基礎マトリクス						
		文章の適用範囲						
		散文思索のマトリクス						
言語とは何か?	1	散文				詩文		
媒体・メディアとしての言語の階層	2	論理	感情	↑ 現実の世界 ↓ 夢の世界	小説の世界	↑ 問題 ↓ 境界	↑ ウツツ	
	3	一行一意の世界。思考の世界。哲学と形而上学 (meta-physica) の世界	生きてゐること。発声すること。声の世界。Voiceの世界。行為・行動に直結した世界					一行多義の世界
	4	デジタルの世界 (0, 1)	アナログの世界 (階調の世界)					
	5	科学 (physica) の世界	人文科学の世界					
	6	精神科学の世界						
7	事実と私の世界 [私が事実を知る世界]							
8	感覚・感じの世界							
9	直観力の世界 [私が直観する世界]							
10	情緒の世界 [数学者岡潔のいふ世界。これが直観力の源であり基礎である]							
媒体・メディアではない「無媒体《言語》」の階層。沈黙の《言語》の階層。言語「以前」の言語の階層。超越論の世界。沈黙の世界。時間の存在しない、音のない世界。夢でもある世界	11	事物の根底 [der Grund・the ground] の世界 qualitas occulta [オカルトの世界]	空白・余白・(AND) SO FORTHの世界。隙間(空間)と合間(時間)の世界。《マ》[時空連続体]の世界。世界は差異である世界。事物と言語の再帰性の源である差異の世界。空と無の世界 [空とは函数のことであり、無とは論理の余白のことである]					

あなたは、このtable・テーブルの上を縦横無尽に走り廻つて歩いて思考し、文章を書くのですし、実際に文章を書いてゐるのです。あなたが小説家になりたいければ、上記の通りに、「散文思索のマトリクス」の列の、行番号1から11までを相手にして筆を振るはなければならない。これが結局、夢と現実の両方を往復しながら一つの世界を言葉によつて創造することになるのです。このマトリクスにある分類は、職業作家も素人作家も同じに適用される。また、『安部公房とチョムスキー (4)』(もぐら通信第76号)の「5. チョムスキーの統辞理論とバロックの言語学: (1) : チョムスキーの統辞理論とは何か/ (2) ポール・ロワイヤル文法とは何か」(ダウンロードは: : ダウンロードは: <https://docdro.id/mXVYXYf>)にて安部公房の言語階層分類とチョムスキーの言語論

の階層分類を一つにまとめた図解「安部公房の分類」を此処に掲げます。ダウンロードは：<https://docdro.id/k3zWUxJ>



この二つの、マトリクスと図解の関係は如何にといふと、後者を単純明解なるモデルとして手元に置き、この言語宇宙の階層化のことを念頭に置きながら、マトリクスといふ将棋か囲碁の盤面の上で言葉の駒か言葉の石を動かしまたは置いて思考してほしいといふことです。他方、マトリクスは、あなたが日常生活に置いて、何かにつけ見るもの聞くものその他感ずるものを分類するのに役立つ、更にマトリクスは、それらを言語に変換し文字起こしするに際して其の言葉の盤面上の位置を確かめるのに役立つか、新たな別の言葉を引いて来るのに役立つ筈です。参考までにチョムスキーの階層分類も示します。これはざつと見るだけで結構です。チョムスキーの言語学と文法学上の用語を目にしてみるとどこかで役立つかも知れない。



さて、上掲最初ののマトリクスの意味するところを、以下箇条書きにして、文章道の指針と題して列挙します。このマトリクスの上で文章を書くことを、言語に変換するといふのです。あるいは、言語化するといふ人もありますが、同じ意味です。言語化するのですから、文章を書くためには当然に、言語の持つ論理について知らねばなりません。その一つは論理学ですが、これも算数でならつたベン図の集合論で意義・sense・センスと意味・meanings・ミーニングの関係を整理して後述します。この図は実は、以前スイスのジュネーヴにある国際標準化団体であるISO (International Standardization Organization)のウェブサイトに行ったときには、私たちの思考論理の組み合わせの全ての場合が図解されてベン図として掲載されておりましたので、この論理は人類の共有する、個別言語を問はず財産であるといつて良いものです。思考にも標準・standardがあるのです。

目に見える物質と物理の世界に標準があるならば、当然にそれらを整理する目に見えない思考論理の世界にも標準があります。これを念頭に置いて文章を書くなれば、あなたの散文の文章は外国語に翻訳されても普遍性を備へておられますので、世界中の人々に理解されます。此処で、安部公房の存在の師匠、石川淳の名言を引用してをきます。

散文とは、その人の精神の軌跡である。

これが十全にできたならば、これは私の愚言ですが、次のやうなことが可能になる。

あなたは、散文の範疇に於いて、あなた独自の文体を創造することができる。

この場合の文体といふ此れも明治時代に先人の和訳した訳語は、言葉を替へると、様式であり、スタイルであり、styleです。この概念は一般概念として、文学以外にも、造形美術や建築物や提案や、その他様々な領域の創造に於いて範疇横断的に適用されます。さて、指針です。

文章道の指針

(0) このマトリクスの背後には、または行番号11として示した根底にはバスの最も低い音が鳴つてゐる。普段私たちには此の音は聞こえない。楽器を媒体にして行数2から8までの空間に響かせる以外にはない。音楽と学の音といふと整理された音の体系があると思ふ訳ですが、此処では其れ「以前」の、いつて見れば混沌を想定してゐます。今、この地図といふべきマトリクスの表には出て来て

りませんし、音は目には見えませんが、これが文章の背後か根底に鳴つてゐると思つて下さい。混沌とは何かについては後述します。

(1) この音には二種類あり、一つは連続量としての波の音であり、もう一つは非連続量としての粒子の音である。

(2) この波であれ粒子である音は、聞こえたり聞こえないものであつたりする。

(3) この音のうちで最も根元的な音は低音である。

(4) 音を言語化することは非常に難しい。日本語で、このことを成すことは、永年の私の願ひであるが、難しい。トーマス・マンはドイツ語といふ言語で、これを、それも楽々と、なしてゐるやうに私には見える。

この(4)のことを、日本語で同じことをなさうと思ふと、それはやはり日本の音であるからには自然に雅文体になる。あるいは、万葉集の長歌、または短歌、浄瑠璃、浪曲、浪花節、といふことになるのではないか。今ある散文的な日本語で、それも明治時代以来の言文一致体で日本の音楽を言語化することは難しい。楽の音を散文の言葉に変換するとは、どうやつてか、散文に美を見つけることになるが、それでは普段の生活で私たちはそんな日本語を話してゐるかといふと、さうではない。生活がさうなら、文章もまた、さうなる。だから、ここでは、美文を書かうといふのではない、事実を書く散文を主題とする。それに、そもそも、

散文とは事実を、過不足なく、書くことである。

この傍線を引いた、過不足なく、といふことが大事である。散文を書く上で、これが一等難しい。この過不足なくとは如何なる意味か、何をいふのか、どのやうに言つたら事実を過不足なくいふことになるのかは、図解を以て後述する。そこから先は、この技術の習得に関して、あなたの生活上の工夫あるのみ。

(5) 詩文に対して散文を置くと其の特徴と特性が非常に際立つてよくわかる。詩文の一行は多義的であるが、対して散文の一行は一意的である。

(6) 一行の総体である文章といふものは、あなたの体の中から五つの感覚と共に、また生理的感覚と共に、其処から生まれて来るものであること。従ひ、

(7) あなたの生得・生来の身体の旋律と韻律、カタカナでいへば、メロディーとリズムが大事だといふこと、この表現として立つものが、あなたの文章であり、これが際立つて特徴的であれば、それはあなたのスタイルであり、それは生活の様式といつて良いのものであり、従ひ、あなたの人生の航路を、その方針を

行き先を、無意識にでもあれ、既に決定してゐるものであること。即ち、

(8) 此処に、あなたの声・voiceがあり、声調のあること。つまり、

(9) 上記(7)にいふ、メロディーとリズムとは、あなたの息使ひであり、息の出入りの息の長さとお息継ぎであり、それはそのままあなたの思考の息の長さとお息継ぎの姿であるといふこと。勿論、人間は生き物であるので、これは時により、日により、異なつても一向に差し支へがない。それ故に、

(10) 上掲のマトリクスの左側に、詩人の領分と共有してゐる「生きてゐること」といふ列が一行、1から11まで、意識から無意識の深奥にまで真つ直ぐに立つてゐるのである。あなたの言葉は、あなた自身が、余人ならぬ貴方自身が生きてゐることから生まれる。形式を尊重することは大切であるが、決して形式に囚われて囚人のやうな意識になつてはならない。これが、どうしてもさうなつてしまつたと気づいたら、安部公房を読みなさい。閉鎖空間から脱出することができます。さうして、

(11) もしあなたが散文家のうちの小説の書き手になりたいと願ふならば、この上記(10)で解説したひと柱の列の二つ左隣にある「現実の世界・ウツツ・夢の世界」を書けば、小説家になることができる。もつとも、何が夢で何が現実であるかは、あなたが安部公房の読者である以上、識別は難しいことは十二分にご存じのある筈であるので、これを明確に区別する必要はない。間に「ウツツ」とあるのは、このウツツといふ大和言葉は、いつも大抵は夢か「ウツツ」と、現実といふ漢意(からごころ)の対語として使はれるのであるが、この論稿、一種の書き方マニュアルといふべきものを描き始めるに当たり、よく其の意味を考へてみると、「ウツツ」のウツは、虚(ウロ)のウであり、木の虚・ウロのウであり、どうもツツと音がくりかへされてゐることから見ても、ウツが一個の動詞ならば、ウツウツの縮約形なのかも知れず、今厳密な語義の定義はできないが、漢語でいふ現実と夢(これは大和言葉であらう)の間を往復する其のコトか、そのやうな力のコトをいふのではないかと推量したので、中間の位置に置いたものです。つまり、私たちはウツツを媒介としてあの世と此の世を往来する。従ひ、《ヨ》の音義は、あの世とこの世と、あれとこれで意味の限定をすることから明らかやうに、二つの世を一語で表す上位概念である。さうすれば、此岸も彼岸も、あの世・この世の言ひ換へであるならば、《ヨ》の音義は、この仏教用語の上位概念である。といふことができます。

私たちの日本語は、海外の言語に対して常に上位概念である語彙と言葉でできて

みる一次元上の上位言語です。最近整理した次の上位・下位概念分類を幾つか例示します。これらはアングロサクソン語族の言葉と概念ですが、いずれも私たちの日本語は一語一音一義で立派に、これらの語の意味を含んで、通用してゐる。

《 》は、安部公房の例に倣つて汎神論的存在論の用語であるといふ意味を表し（縄文哲学・縄文形而上学・神道学）、その隣の（ ）と中に置かれた二項対立の語は、《 》の下位概念にある言葉であることを示します。果物（りんご、みかん、バナナ、……）といふ果物と其の中に含まれる果物の種類の名前の関係と同じです。野菜ならば、野菜（大根、人参、ジャガイモ、……）となります。果物と野菜が形而上学的次元に階層を上げて格上げの意義と意味になるのです。

《カネ》（貨幣・通貨）：《カネ》一語で二つのものを一体に表してゐる。

《マ》（時間・空間）：《マ》の音義一つで時空連続体を表してゐる。

《アル》（存在、現存在）：西欧米語の二項対立の概念を《アル》の一語で統一的にいふことができる。

《ヒト》（男性、女性）：欧米語のやうな二項対立の男女差別は、ない。

これは、少しの例ですが、これらの哲学的な概念がかうであれば、明らかに日本語はアングロサクソン語族の上位言語であると明言することができます。フンボルトといふドイツの言語学者も分類に困つて、日本語に孤立語などといふ名札をぶら下げて思考停止になつたことは、どう仕様もなかつたのでありませう。従ひ、このことから、

（12）漢意（からこころ）とやまところを明瞭に意識すること。さうして、語彙の語義の相違を意識して語彙を選択することです。此れは18世紀の国学者本居宣長のいふ通りです。

（13）以上の更にもう一つ左側に、問題上昇とあり、一番左の行の数字の右隣に、問題下降とありますが、前者も後者も18歳の安部公房の定めた思考過程に関する規則についての用語です（『問題下降に依る肯定の批判』全集第1巻、11ページ）。

この用語の意味はこのまま意味する通りで、上から下へと行2から行11まで下降して来ることが問題下降です。この場合、あなたは常に「それは何か？」といふ問を立てて此れに答へなければなりません。これとは逆の順序を踏んで、下から上へと上昇するのが、問題上昇です。詳細は其処に至つて説明します。

（14）さうすると、あなたの思考は一体どうなるかといふと、大体ほとんどの場合には、行7から行11の階層を上り下りすることになる筈です。そして、こ



れが狭義の思考の意味であり、普段私たちが考へて口にする言葉の意味の適用範囲です。

(15) 上記(14)に於いて、私は数学者岡潔の用語である情緒といふ含みの実に豊かな言葉を此処で用語といふよりは日常にわたしたちを活かしてくれてゐる言葉、コトのハとして、此処に置いて一つの階層としました。この階層の直ぐ上は直観力(直感力ではないことに留意。直感力は行8になります)、そして直ぐ下は、安部公房のいふ「言葉以前」の世界であり、余白の世界であり、音声と音楽との関係では沈黙の世界です。最も根底的な、宇宙の本源的な、言語を絶し・言語の絶する場所です。

ショーペンハウアーのドイツ語の言葉を拾つてder Grund・グルントと書き、英語では野球でお馴染みのground・グラウンドとしました。ここはもはや言語では説明できない世界ですので、そのままこれはオカルトの世界です、横文字で正確に表現すれば、qualitas occultaといひます。クアリティス・オクルタ。此れは、今世に流行るオカルトでは余りに軽薄な意味になつてゐるので、私たちの、言葉に対する襟を正し、言葉を正しく使ふための一里塚・交通標識・里程標・目安といふことです。

これは言葉でいひやうがありませんので、信仰と宗教の領域でもあつて、私たちは普段何に信を置いて生きてゐるのか、それ故に世上いつも詐欺の世界と紙一重の世界となり得る場所です。他方、私たち人間の大量心理は、誰か本物の人物と何かの奇蹟に騙されたいといふ願望が心密かにあることも忘れないでほしいのです、あなたが安部公房の読者である以上。私たちの思索は科学的に参りませう。そして、空飛ぶ男の話を読むことにしませう。まあ、スプーン曲げの少年の物語でも良いのですが。私が世の中を遍歴して此の文脈で知つたことは、物事の本質を知つてゐる人は詐欺師に似て来るといふことです。世人は本物と贋物の区別をつけることが、此処では、出来ません。これを私は愚かとか愚かしき呼んでゐます。

(16) 上記(15)の世界は、余白の世界であるといふことは、そのまま差異の世界なのであり、これは人により、また宗教により、空と呼んだり無と呼んだりして、昔から今に至るまで議論の喧しい領域です。

私の結論は、般若心経にいふ空とは数学でいふ函数のことなのであり、見かけ上目に見えませんが同類に見られがちな無といふ概念は、空に対して、このやうな理性による人の計算能力の実りある成果とは別に、論理的な結論にならぬ、論理と論理の狭間であり隙間である空白・余白のことなのです。従ひ、無を論理的に明示することができます。その空白部分を指差して、ほら、これが無だよ、と



私は示すことができます。この先無の概念の説明が必要となるならば、これをベン図で示します。論理的に無の概念を示すことができます。宋の時代の禅のお坊さんは、この無を論理的に正しく理解してゐたのです。無門著『無門関』の公案を拝見しますと、そのやうに思ひます。

もつとはつきりといへば、世界は差異でありますから（宇宙原理第一項）、世界の差異、即ち時間的・空間的な差異にあつて、あなたが其の隙間に函数関係を認識し発見したら、其の隙間に有る無さは空なのであり、同じ隙間を見てゐても他の人には函数関係が見えない、認識できなければ、その差異は無なのです。ですから、このやうに、差異といふ余白に、あなたが何を見るかまたは観るかによつて、また空を観るか、これならば空、または無を観る即ち函数関係の発見のない場合には、それは無、である。カントの『純粹理性批判』を読んで此の議論のある箇所を読んで、このやうな議論があれば、カントはケーニヒスベルクに生きて、理性の限界に至つた、安部公房の用語でいへば「世界の果て」に至つたといふことです。さうして此処で、世界が反転して他方の極へと議論が向かふことは、プラトンの描くソクラテスの対話の示してゐる通りです。これが本物の弁証法です。法ですから、実は仏法と変はらない。イデオロギーとは何の関係もない。

また、同じ此の事物の根底のオカルトの世界・余白の世界を、ロシアの詩人チョムスキーは其の詩『SO FORTH』の中で、文字通り題名通りに、その他色々といふ名前で、雑の部の雑といふ名前で、この無の領域を原語はロシア語で明らかに色彩豊かに毎年繰り返される秋の狩猟のできるようになる秋色深き季節の歌として詠んでゐますので、私たちの季節感溢れる超越論の世界に大変通じてゐますので、もし必要ならば和訳してお伝えしたい。あるいは此の和訳は、別稿の掲載となるかも知れませんが。さうです、もし其の宗教が、無と空を混同してゐるならば、それは逆の使用法になりますが、その宗教はカルトです。これが、私のカルト宗教の定義です。これにお金を無心するといふ一條が更に追加されればいふことはありません。

一番最初に置くべきことを最後に書くことになつてしまつた。

(17) あなたの書く散文は、小説・フィクションとノンフィクション・事実の いづれの文章を書かうが、あなた自身の論理と感情からなつてゐる。 このことを連載の初回の最後の一行として心に銘記願ひたい。これも人間の精神と心理の二つの範疇の違ひも、精神とは何か、真理とは何かといふ間に答へながら、これから答へたい。これに続けて、

(18) 言語はデジタルであり、(0、1)である。感情は0であり且つ1であ



あつて、また1ではなく0でもなく、否、0でだけあつて1などないのだなどと、このやうにあり得るのだし実際にさうあるので、これはアナログである。前者の言語がデジタルだといふ事実については、安部公房の言語論に言及してブール代数といふ数学に拠つて後述することがあらう。後者については、私たちの、いはゆる生活感情を思ひ出せば、理屈はみらぬだらう。

さうしてみると、感情は夢の世界に通じてゐることになる。即ち、アナログであるといふことは、どこか理屈の脈絡といふものを欠いてゐるといふことです。私は此処で川端康成の書いた美しい作品『抒情歌』を思ひ出す。ここが、岡潔の繰り返しいふ情緒の一つであるのかも知れない。但し、その著作を読むと、それはやはり静かな感情といふべきであるが。激しい感情は情緒といふことはできない。何処か、詫びとか寂びといふ境地に、あるいは、通じてゐるのかも知れない。といふことは、この境地は詩文と散文の境界域にある私たちの感情の一つなのかも知れない。

最後に、あなたの人生にとって、とても大切なことをいひます。

(19) 冒頭上掲のマトリクスの行1から行8までが、あなたが自分だと普段思つてゐる「私」であり、行8から行11までが、安部公房の表現を借りていふ「私の中の「私」」の后者の「私」の世界です。后者の「私」は余白と沈黙の世界の《私》と表記して、あなたに伝えることができる。あなたは二重写しになつてゐる。あなたは再帰的な人間である。此処から先は古事記の世界、古代ギリシャ神話にいふなら神話の、しかしあなたの実感が証明してゐるやうに、これは事実の世界です。余白も沈黙も事実の世界である。qualitas occultaは事実である。この事実の世界で、あなたはヒトでありミコトであり、従ひ、お祓ひによつて、あなたは事実、メビウスの環のひとヒネリの交差点で、実在するカミである。これが、縄文思想であり、今を生きる私たちの根源的なまたは根元的な、日本語に生きる私たちの、原理です。

(20) 上記の(19)のところまで論が及ぶと、実は詩文と散文の区々たる別はなくなる。それがマトリクスに縦一列に書いた「生きてゐること」です。言語と文学の視点から、この世・あの世を眺めると、このやうな結論になります。或る祝詞では、この二つ目の深層に生きる「私」を、心の中のカミと呼んでゐます。さうして、かう言ふ。心の中のカミを傷(いた)ましむることなかれ、と。あなたの中の「私」を大切にすることが「生きてゐること」です。どうか、くれぐれも、あなたの「心の中のカミを傷(いた)ましむることなかれ」。

以上(19)と(20)で私のいつてゐることを一言でまとめると、

(21) あなたは二つ目に存在してゐる深層の、心の中にあるカミと対話をして、其処に生まれる言葉ならざる言葉を言語化し、一つ目の私の言葉にして文字に起こす。

これが散文を書くといふことです。

さうして、このコトが私たちにできるのは、コト・タマの力に拠つてゐる。だから、「私の中の「私」」といつてさうあるやうに、コト・タマはいつも一対になつてゐる。だから、一つのコトを思つたら、二つ目の一対となるもう一つのコトを思つてみる。あなたはコトを二重写しにしてみる。この二重写しの姿が、コト・タマの力に依つて言語化するあなたの姿である。この自己の発見の連続、これが文章を、頭の中であれ文字に起こすのであれ、ものを考へると言ふことです。あなたの精神の軌跡です。

考ふといふ動詞が、カミ・迎へといふ意味であるのか、カミ・交(か)ふ、といふ意味であるのか、いづれにせよ、いづれの意味であらうと、即ち、あなたが自分からカミを迎へに行くにせよ、カミの方からあなたにやつて来て交差することをするにせよ、二様はこの存在の交差点即ちあなたが《アル》場所では、一様であつて、この場所この交差点の発見が、あなたが「生きてゐること」であり、あなたの文章の生まれる場所なのです。

以上が、散文とは何かといふ説明です。

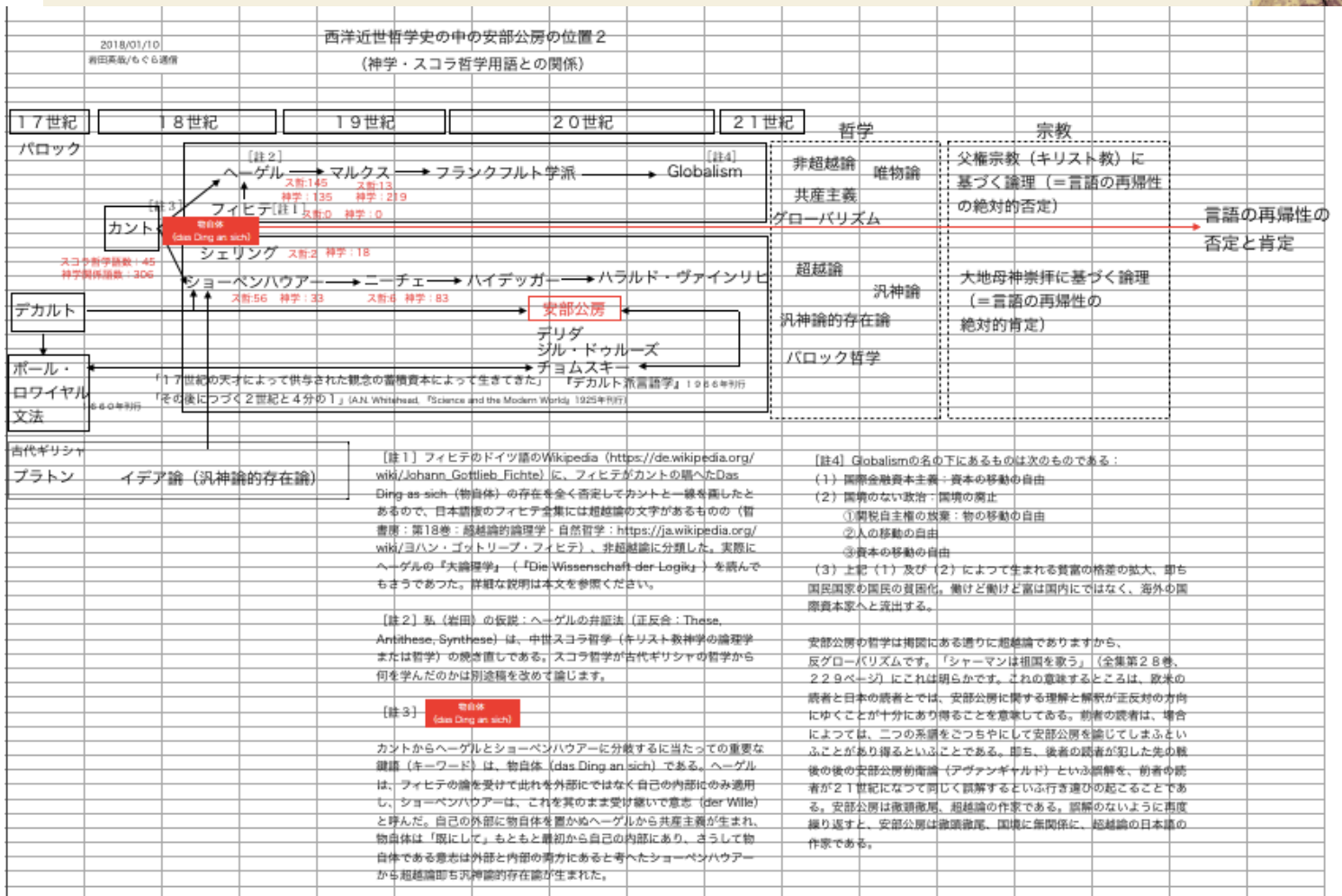
さうさう、だから、それ故に、

(22) 精神とは批評する能力即ちあなたの此のコト・タマのチカラのことです。力には作用と反作用があつて、即ち、ニュートンの物理学にある通りに、引力と此れに反対する斥力があるので、あなたのコト・タマは、この均衡点に絶えず動いて、移動しつつ《アル》。これが、あなたが二重写しであるといふメビウスの環即ちムスビにゐるといふコト、即ち日本語で《アル》といふコトです。時間といふ差異の中では、この時間的差異とは常に遅延であることから、あなたは神道でいふ《現在》または《いま》(今・居間)、即ち神道用語でいふ中今をいつも忘れてしまつて《現在》または《いま》を失つてしまふ。このメビウスの環のムスビにある穢れを祓ふ必要が、これも絶えずあるといふことなのです。祓ひとは想起することです。これはプラトンの想起説と同じです。これが神道の原理であり原理的論理です。それ故に、あなたは存在の交差点に立ちそして《アル》神社即ち《ヤ・シロ》にゆき、二礼・二拍手・一礼を以て天地(あめつち)を90度の礼ならば此れを再現してアメ・ツチの間に御祀りをし、即ちアメ・ツチの間に大きな差異を設けることによつて身を清め祓はれて、あなたはミコトに復歸して、世俗の塵埃の中へと歸つて行く。それが私だ。これが私たちの超越論であるといふことは繰り返し『繩文紀元論』にて詳述した通りです。

他の民族、他の個別言語、他の国民にはまた他の、しかし同じ質を備へた論理による超越論がありませう。例へば、ヨーロッパ西欧の生命の哲学の系譜のやうな。この西欧の哲学の系譜の分岐の図解については『安部公房とチョムスキー（4）』（もぐら通信第76号）の「5. チョムスキーの統辞理論とバロックの言語学:

(1) チョムスキーの統辞理論とは何か/ (2) ポール・ロワイヤル文法とは何かにて論じました。この図を再掲します。ダウンロードは：<https://docdro.id/OphPFf0>

もぐら通信第76号のダウンロードは：<https://www.docdroid.net/mXVYXYf/6-pdf>



(つづく)

ネット・モナド論 (37)
民主主義の政治とは何か2

岩田英哉

1 イギリス人とフランス人の人間観の違いについて

ブリテン島でジェレミー・ベンサムやトマス・ホッブスが前述の思想といふべきか、さう思想といふならば人間を量として考へ思量する思想によつて民主主義の政治制度の基礎となる論理を考へた時期に、同じ17世紀にドーヴァー海峡を渡つた大陸側のフランスで、哲学者にして数学者であるルネ・デカルトといふ人が『方法序説』といふ思考規則と方法論を叙述した六つの部からなる本の中で、しかも当時の学問語であるラテン語で書かれたのではなく普通のフランス人の生活してゐる日常フランス語で書いた其の開巻第一行を次のやうに書き始めてゐた。これはイギリス人の政治の理屈とは全く違ふ「コモン・センス」哲学といふべき哲学の論理である。

良識はこの世で最も公平に配分されてゐるものである。

Le bon sens est la chose du monde la mieux par tagée

これが本来の民主主義の政治の基本にある人間像であり、人間能力像です。

デカルトのいふ此の良識といふフランス語の意味するところを、小林秀雄が『常識について』といふ批評の中で次のやうに解説してゐる。

「良識とか善知識とかいふ言葉があります。フランス語のボン・サンスの訳語だが、これは、極く新しいもので、恐らく昭和には這入つてからの新語でせう。いづれにしても、日本語として、未だ熟してはゐないし、これから熟しさうもない。常識といふ言葉があれば、事は足りるからです。コモン・センスに見合ふフランス語は、サンス・コマンだが、ボン・サンスの意味合ひは、これとはつきり区別する事はむづかしいやうです。(略) イギリスの「コモン・センスの哲学」が、哲学の一派として、どういふ内容を持つてゐたか、どういふ事情で成立したか、その委細については、私は、無知で、お話しする事は出来ないが、いづれ、バークレーとかヒュームとかいふ極端な立場に立つて物事を考へる学説が、あんまり行はれると、必ず、これに対して、普通な考へから物を言つたらどうかといふ発想が、学問界に起こつて来る、さういふ事だつたに違ひないと凡その見当はつくわけだ。私のお話しの眼目は、さういふ常識と呼ばれてゐる、私達の持つて生まれた精神の或る能力の不思議な働きにある。それだけが、眼目だから、敢へて乱暴な言ひ方をするが、「コモン・センスの哲学」の元祖と言ふ事になると、

これは、どうしても百年ばかり遡つて [註]、デカルトと言ふ大人物に行き当たらねばならぬ。(略)「ボン・サンス」と呼ぼうと「サンス・コマン」と呼ぼうと一向構はないので、デカルトも、時と場合により平気で、両方を使つてゐるし、「ボン・サンス或はレーゾン」とも言ふ。レーゾンは極く普通の意味での理性で、哲学者達の専門的定義とは全く関係のないもの、むしろ分別とでも訳した方がいいものだ。要するに、彼に言はせれば、常識といふものほど、公平に、各人に分配されてゐるものは世の中にないのであり、常識といふ精神の働き、「自然に備つた知恵」で、誰も充分だと思ひ、どんな欲張りも不足を言はないのが普通なのである。デカルトは、常識を持つてゐる事は、心が健康状態にあるのと同じ事と考へてゐた。そして、健康な者は、健康について考へない、といふやつかしいな事情に、はつきり気付いてゐた。(略)」

[註]

トマス・ホブズは17世紀の人で、1588年から1679年、デカルトは同じ世紀を生きて1596年から1650年の人、ジェレミー・ベンサムは1748年から1832年を生きた人で18世紀から19世紀初の人であるので、小林秀雄は「これは、どうしても百年ばかり遡つて、デカルトと言ふ大人物に行き当たらねばならぬ。」と言つてゐるわけです。

ヒュームは1711年から1776年、ジョージ・バークレーは1685年から1753年までの人であるので、18世紀のこの二人の「極端な立場に立つて物事を考へる学説」の反動として同じイギリスに「コモン・センスの哲学」が生まれたが、しかしその元祖は100年前の17世紀のフランスの哲学者デカルトが元祖であるといつてゐるのです。ちなみに、この「コモン・センスの哲学」はWikiには次のやうに記述されてゐる。

「スコットランド常識学派

スコットランド常識学派の提唱者、トマス・リード

スコットランド常識学派(英: ScottishSchoolofCommonSense)は、18世紀から19世紀にかけてスコットランドで形成された哲学の学派である。主にデイヴィッド・ヒュームの懐疑主義への応答として始まり、イギリス経験論とも大陸合理論とも異なるスコットランド独自の思想を形成した。「常識」という語に語弊があるので、しばしば「コモン・センス学派」とも呼ばれる。

概要

スコットランド常識学派とはヒュームの主張した印象と観念を媒介とした認識論に対抗し、正当な知識の根拠を我々の「常識(コモン・センス)」に訴えるという思想であり、トマス・リードに代表される哲学の学派である。

常識学派の代表的な人物と目される者はリードの他に、ケイムズ卿ヘンリー・ヒューム、ジョージ・キャンベル、ジェームズ・ビーティー、ジェームズ・オズワルド、デュガルド・ステュアート、ウィリアム・ハミルトン等がいる。(略)」(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%82%B3%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89%E5%B8%B8%E8%AD%98%E5%AD%A6%E6%B4%BE>)



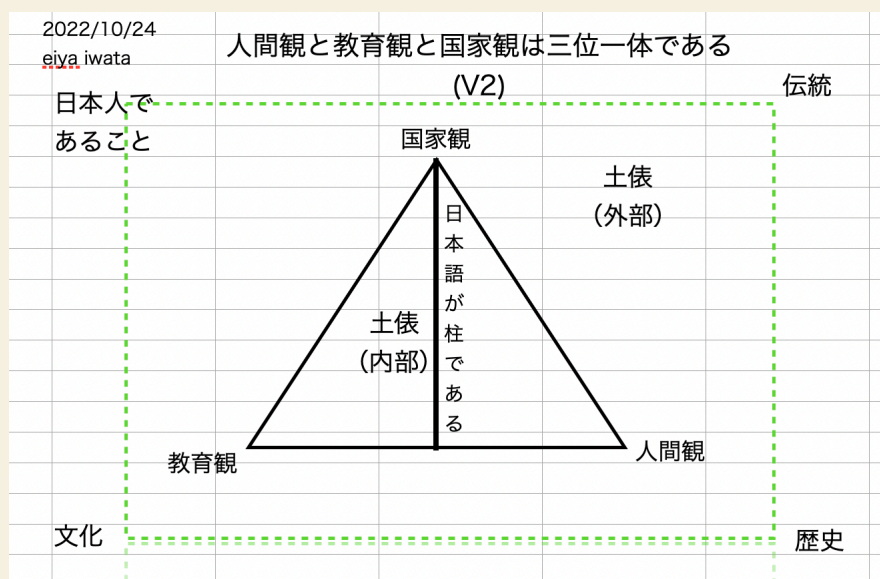
2 常識と日本人の成熟について

だから、デカルトのいふbonsensを、小林秀雄にならつて分別といへば、大東亜戦争後に日本人の馬鹿にして来た人間個人の成長をして成熟した大人になるといふこと、この歴史的事実とは正反対に、成熟した大人として備はつてゐる、そのやうな人間像にしかないといふべき分別のことを哲学の基本に導入して、その哲学を打ち建てたといふことになり、実際上記の引用の後に、小林秀雄はさういつてゐる。

私は、この常識ある成熟した人間としての大人、子供ではない大人こそが民主主義の基礎であるといふ此の常識を基礎に置いた政治制度こそが、私達の民主主義であると思ふのである。べきであると此処で書かないのは、既に私達の民主主義は伝統的にCの場合、即ち50:50を均衡点にしてゐる力の総体としての対称性を尊重する政治思想であるからで、これは私のみならず、あなたの実感でもある筈であるが、政治のみならず経済についても同じ価値を持つてゐるといふことを私たちは無意識にでも知つてゐるからです。無意識にとは、だから、日本の伝統の、従ひ文化の、力だといつてよい。

3 人間観と教育観と国家観は三位一体であることについて

この人間像は、従ひ、そのままに教育の問題に直結してゐる。国家は組織である以上、これは生きた有機体なのであり、国体といひ政体といひ経体といふ以上は、皆体タイがあるのであるからには、垂直方向にも（国体と下位の政体と経体の関係）、また水平方向にも（政体と経体の関係）、そしてこれらの二つの方向軸の全体を包摂する文化の、従ひ伝統の、そして歴史の総体といふものを大前提にした教育といふものを確立することが大切だといふことが解ります。



国家が有機体であるとは、体タイが相互に関連して生きて動いてゐる生き物であると考えらるることである。だから、プラトンの国家篇にソクラテスの感嘆するあの隠喩（メタファ）、即ち、国家を人体の隠喩で理解すると何故こんなに理解が容易なのであら

うか、といふ感嘆の聲の発せられる理由なのである。

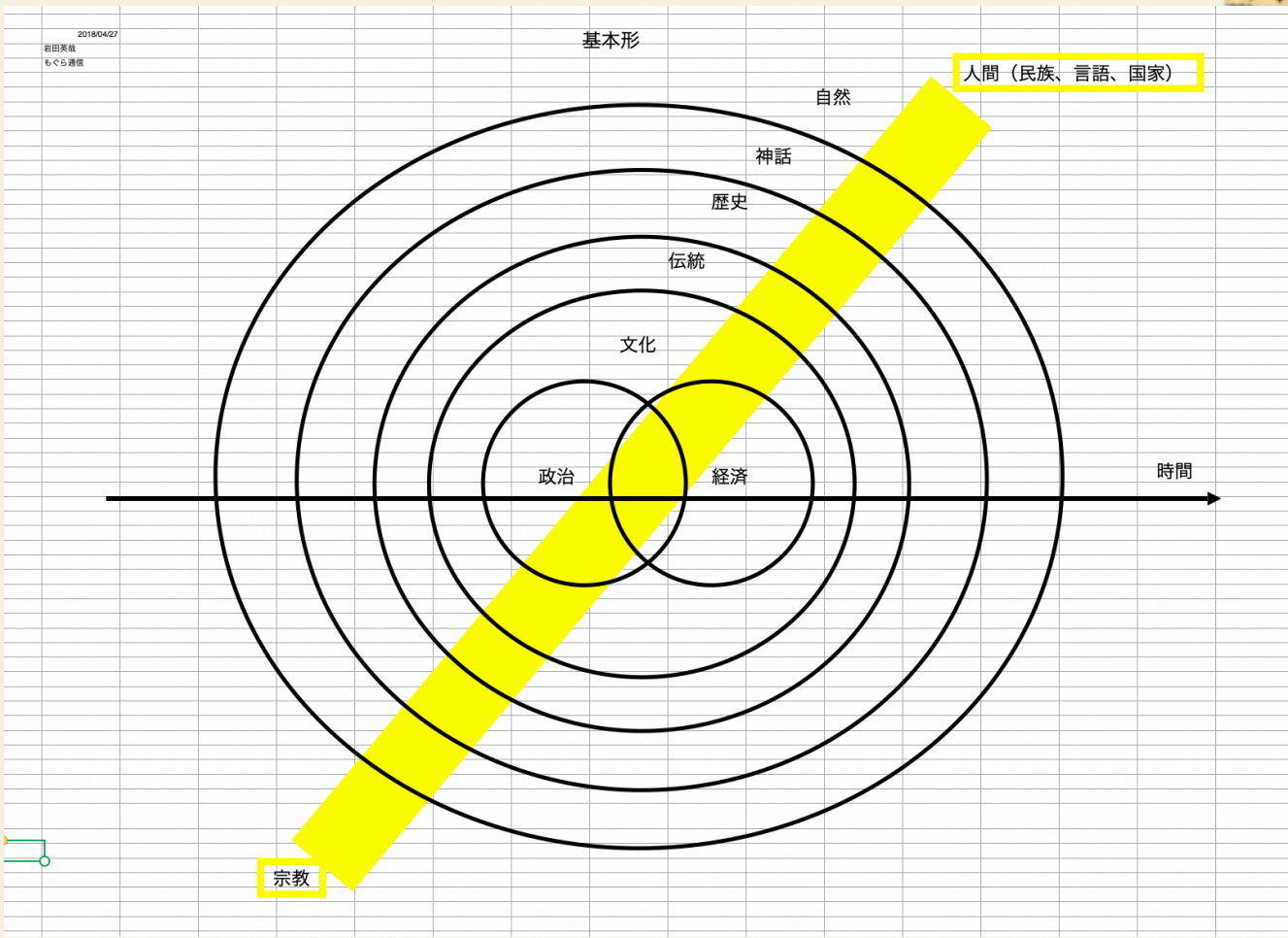
国家は有機体である。

私のこのやうな考察によれば、沈黙の民たち (silent majority)、選挙用語にいふ無党派層の個人個人は、更に私の呼ぶpersonals (水平方向に同格で散開してゐるネット・モナドである個人) は、20世紀までの垂直方向で国家権力が呼んだindividualといふ此れ以上分割出来ない国家構成単位としての個人ではなく、前者の個人として「人間観と教育観と国家観は三位一体であること」を日々の生活で強く求めてゐる筈です。

といふ事は、此の日本人としての個人像は、伝統 (文化と歴史を含む) に基礎を置いた個人の成熟を、大人になることを心の奥底で願つてゐることになります。

4 何故私たちは一神教の政治制度および経済制度が全然参考にならないかといふことについて

標記の問に対する回答は実に簡単で、何故なら彼 (か) の制度には、自然が欠落してゐるからである。「円盤図」を此処でも再掲します。



【カフカの箴言 11】

岩田英哉

【原文】

Verschiedenheit der Anschauungen, die man etwa von einem Apfel haben kann: die Anschauung des kleinen Junge, der den Hals strecken muss, um noch knapp den Apfel auf der Tischplatte zu sehn, und die Anschauung des Hausherrn, der den Apfel nimmt und frei dem Tischgenossen reicht.

【和訳】

一個の林檎から得られる複数のものの見方の多様性。即ち、小さな若者のものの見方は、なんとかやっとその林檎を食卓のプレートの上にあるのを観るために、首を伸ばさなければならないというものであり、家長のものの見方は、その林檎をとって、自由に、ほしいままに、食卓を同じくする仲間に渡すものだということのの見方である。

【解釈と鑑賞】

これも、一読の通りの箴言です。カフカの観察のスケッチなのでしょう。

若者と家長の対比で、その一個の林檎に対するものの見方の違いを素描しています。



【ショーペンハウアーの箴言5】

岩田英哉

【原文】

Meistens belehrt uns erst der Verlust über den Wert der Dinge.

【和訳】

多くの場合、わたしたちにまづ最初に物事の価値を知らしめるのは、それを喪失することである。(わたしたちは、まづ物事の価値の喪失をして、初めて、その価値にきづくのである。)

【解釈と鑑賞】

これも、人間の真理を穿った警句です。

解釈は不要かと思えます。読者各人の喪失を思って、理解をして戴ければ。

この警句はまた、積極的に、自覚的に喪失をするに至れば、物事の価値を知ることができるという反対の一行を隠し持っています。これもまた、真理であると思えます。宇宙の真理を知るために、これを行うひとは極めて稀ではありますけれども。しかし、わたしはそのような人間こそ尊い、隠れて尊いと考えております。

十代の安部公房はリルケに没頭し惑溺して、其の中でも此の『涙の壺』といふ詩を、自己喪失をし続けたために貧しくなることによつて、自然の富が豊かに蓄積される器としては空の壺を詩人の姿として詠んだ此のリルケの詩が好きでした。恐らく、同じ詩人の『秋』といふ詩と同じ位好きであつた。

「『涙の壺』

Das Tränenkrüglein

Andere fassenden Wein, andere fassen die Öle
in dem gehöhlten Gewölb, das ihre Wandung umschrieb.
Ich, als ein kleineres Maß und als schlankestes, höhle
mich einem ändern Bedarf, stürzenden Tränen zulieb.



Wein wird reicher, und Öl klärt sich noch weiter im Krüge. Was mit den Tränen geschieht?
—Sie machten mich schwer, machten mich blinder und machten mich schillern am Buge,
machten mich brüchig zuletzt und machten mich leer.
(<http://www.textlog.de/22406.html>)

安部公房は、何度かこのリルケの詩『涙の壺』に言及して、自分の所説を述べている箇所があります。『涙の壺』とは、若き安部公房が愛唱したリルケの詩です。

この詩については既に「『魔法のチョーク』論」で詳細な註釈を付しましたが、煩を厭はずに、また読者の手間を省くためにも、さうして安部公房を理解することの方が大切ですから、再度ここに引用して長い註釈とします。ご記憶であれば飛ばして下さって結構です。」

『魔法のチョーク』論（もぐら通信第52号）のダウンロードは：
<https://www.docdroid.net/1a3J4RE/document>



高天原便り

(11)

ユーコクの土と薩摩芋

岩田英哉

この頃は、夕方になると、寒いせいもあるかも知れぬが、酒が飲みたくなつて、喉が渴（かつ）へるのである。それで、私は夕刻の土になるのである。断るまでもないと思ふが、憂国の土ではない。鹿嶋の極楽蜻蛉は夕刻の土である。さういへば今日初めて朝日の中に赤とんぼがやつて来て、デッキの手すりに留まつて日向ぼっこを私の目の前でしてゐた。これも極楽蜻蛉。私の姿である。

憂国の土役は国津の世界にお住みになる方々にお任せして、私はユウコクの土になるのです。まだ東京にゐて、いよいよ人生の仕上げでもあると決心して外国為替相場の研究をあるFX塾に入つて研鑽を積んだのは、はや六年前に、思ひ起こすと、なるのだ。

当時、還暦を二年過ぎて二十代と同じく集中的に3ヶ月の間夜も昼も土日も平日も無関係に、毎日ほとんど寝ずに一心不乱に相場を読み続けた。どうも私が此のやうな勝負を賭けるといふ時には、睡眠時間は一日二時間になるやうで、三ヶ月後に最後のレポートを塾の主宰者にパソコンのキーボードのRETURNキーをひつぱ叩いて、ああ終はつたとおもつてメールで送信した直後に、安心して気が緩んだのであらう、さて椅子から立ち上がらうと上を見ると天井がグルグルと回転して歩くことができずに、そのままゴロンと床に横たわつてしまつて動けなくなつてしまつたので、救急車で病院に搬送されたのは、生まれて初めてであつたし、そのベッドの上で三ヶ月を振り返つて計算すると1日の睡眠時間が二時間なのであつた。しかも学生時代には時間が惜しいので机の上でドイツ語の本の上に突つ伏して寝たのであるが、この度はそんな寝方はせずちゃんと布団の上に転がり込んで寝たにも拘らず此のザマである。二十代ならば体力があつたので無理が効いたのであると知つたが、これから先、あと残りの人生の時間で同じことをやつたら、私は間違ひなくお陀仏になるだらう。しかし、人生はわからぬもので、明日何が起きるかは誰も知らないのであるから、さうなつたら、あなたとお別れの時が間違ひなく来るのだ。

小林秀雄は後年になつて、何かの講演で、女遊びより面白い学問などといつて講演の見出しにしてゐるが、それはこの男は若い頃にポンポン蒸気船に乗つて、自分の人生も大川と江戸つ子の呼ぶ（芥川龍之介に『大川』といふ美しい文章がある）隅田川に浮かべてプカプカと、アナゴの押し鮨を懐に入れて佃島の女に会ひにいくなどといふ放蕩な生活を命を懸けて真剣に送つたので年をとつてから、そんなキザな科白も言へるのであるが、私はどこかに書いたが、私はといへば同じ



年齢の頃には一心不乱に学業に励んだので女遊びなぞ一切せずに寝ても覚めてもデア・デス・デム・デンをブツブツと、ドイツ語の定冠詞の格変化をいひながら道を歩いてゐる若者であつたのであるから、さあ、小林秀雄の一読者として其の足跡を尋ぬれば、いよいよこれからが我が人生である、学問より面白かつたと小林秀雄のいふ女遊びをいよいよするのだ。と、さう思つてゐるのだが、春にみたケロケロのミコトも雄であり、夏から住み着いてゐるカマキリさんもどうやら雄のやうであるし、一向に異性がやつてこないのは一体どうしたことか。良寛様に晩年やつて来て其の最後を看取つた心優しき貞心尼を待つてゐるのだが。良寛様の師匠の教へ「一日作らざる者は、一日食わず」をもじつて「一日書かざる者は、一日食わず」といふことで生きてゐる。話が変わるが、二度ほど写真で紹介したカマキリ殿も秋の色になつたので、秋色のカマキリ殿をお見せ致さう。



などと豊なる空想に耽つてゐるうちに、小林秀雄論が一つ出来上がつてしまつた。この論は、この優れた批評家が何故日本語の文学の世界を離れたあとに二年間骨董に集中して骨董の売買で生計を立てたのかといふ問に答へるものである。カマキリさんよ、ありがたう。こころ優しき貞心尼よ、ありがたう。いずれ発表します。〔贗良寛記〕

前回紹介した野菜市場の前の自動車道路に面して立ててある看板が「鹿嶋っ娘」となつてみて中に入ると娘どころか老婆ばかりといふ此れは、看板に偽りありとはいはないのである。何故なら、入つて楽しいからであり、人の世の看板に偽りあるといふ場合には、この生きてゐる喜びや楽しさといふものが失はれてゐるからであると気付くのです。このやうな感情と仕掛けをするのは、見てみるとアメリカ人といふ奴は実に心理の機微を心得てゐて、うまいものがあるなあ。日本人も良いところは真似すべきであると思ふのであるが、問題なのは彼奴等はいつても極端に走つて本当に詐欺師になつてしまふのが玉に瑕であつて、偽旗作戦、つまり false flag operation をやらかして、要するにこれは自作自演といふことは、政治でも経済でも国際の舞台で彼奴等がやらかしてきた犯罪的詐欺行為なのであると今や世に知られてしまつたことは誠に愛でたいのである。これを彼らのいふプ



ラグマティズムのそれも商業の世界に限って能力を発揮すれば、これがディズニーランドで子供の心に戻って楽しく生活できるといふところだけは受け入れて良い日本人も大勢今やみるのではないか。私は行かないが。騙されたいと願ふ大衆心理を突いた商売である。やはりデンマークの首都コペンハーゲンにあるTivoli・ティヴォリの静かな悦びがあつていいのである。国際的といふ意味は、世界中の主だつた国の庭園の様式を集めてみるといふ意味で、これは多分18世紀の啓蒙主義の、百科事典の論理で収集されて今も生きる、いふなれば彼らの思ふ世界遺産の一つであらう、ヨーロッパ人にとっては。これがTivoliです：
<https://www.theworldisabook.com/13271/tivoli-gardens-copenhagen/> これは、まあ、日本ではなく、支那の庭園であるらむ。もはや21世紀である。彼奴等の世界収奪・収集・所有欲につきあふのはもう止めにしては如何と存ずるのいある。別にお前たちなんぞに世界的遺産などと高い登録料を払つてまで言はれたくはないね。そんなことなんぞせずに、日本の遺産は皆世界遺産であるからには。私たちは乞食ではない。



さういへば、数日前にYouTubeで見た桂文珍の演題が、「老婆の休日」といふので、演目だけを読んで思はず笑つてしまつたので、最初の枕だけを聞いて話は聞かずにしまつた。これが、桂文珍の「老婆の休日」。日本版の「ローマの休日」である：<https://www.youtube.com/watch?v=NOHvUvB3avE>



私は年中「鹿嶋の休日」であり、幾ら一日書かざれば食はずといつても食はなければ生きてゐけない。あのケチ野郎の畑のサツマイモが気がつくといつて既に全ての収穫が終はつてゐて、また畝が表に出てもとの姿に戻つてゐる。



朝外に出て食糧の買い出しに行かうとすると、オールド・サーファーに行き合った。オールド・サーファーは玄関の壁に若き日に愛用してゐたサーフィン・ボードを立て掛けて門標にしてゐるサーフィン焼けで色の真っ黒けで小柄な、しかしガッツのある70代男である。表通りの街道筋を歩いてみると、真っ赤な小型のオープン・カーをブツ飛ばして走つてゐるといふ典型的な団塊の世代男である。オールド・サーファー曰く、あの芋畑の収穫が終わつたので、小さな売れない芋がゴロゴロしてゐるから採りに行かう、袋を持つておいでといふので、袋を持つてついて行くと、芋畑に入つて行つててづから私の袋に芋を次々と入れて行つて、あつといふ間に袋一杯の小さな芋と不細工な芋で一杯になつた。これが旨いといふのである。といふわけで、これが其の規格外の美味しい芋である。といふわけで、この三日間、私は朝昼晩毎日芋ばかりを食べて生きてゐるのだ。三度三度に4本の芋ですから、 $4本 \times 3回/日 \times 3日 = 36本$ を食した。しかし間食にまた食べたから40本は食べた勘定にはならう。東京といふ大都会にゐた時には、空気が濁つてゐるせいであらう、これだけ芋を毎日食らつてゐると、立派なおナラが出たものであるが、この地は神々の地故に空気は清浄なり、空気が良いと芋とおナラの関係もお祓ひを受けると見えて、その関係密度は薄まつて、この三日間で発せられたるおナラはたつた3度である。住めば都、食ふは芋なり。調べると、おナラにもCO₂が含まれてゐる。一体どうやつて屁のCO₂をゼロ・エミッションにするのかを国際連合とダボス会議の席上、ダボスのシュワブ・ブ・ブよ、発表してくれ。お前のケツの穴にマイクロチップを埋め込むなどといふ着想はどうだ。私の研究によれば、ステーキを食らふお前たち白色人種のおナラのCO₂の量は多く、水耕の民である我ら日本人のおナラのCO₂の含有量は少ないといふ統計的データ解析の結果が出てゐる。シュワブ・ブ・ブよ、必要ならレポートをお届けしよう。連絡を待つ。私は、お前のケツの穴にマイ



クロチップを埋めこむぞ運動を始めたのだからな。

以上、「シュワブ・ブ・ブのケツの穴にマイクロチップを埋め込むぞ運動」事務局より。以下、私の研究成果で、オナラと屁の知識です。

オナラの成分とは：

おならの99%は窒素、水素、**二酸化炭素**、酸素、メタンといった無臭のガスでできており、硫化水素、酪酸、アンモニア、インドール、スカトールといったくさいガスは約1%しかありません。

(shorturl.at/cjwyB)

このイグノーベル賞のオナラに関する受賞歴を読むと、今度日本にやつて来たら、お前のケツの穴に**炭素フィルター**を詰めてやるぞ。覚悟しろ、シュワブ・ブ・ブ。大丈夫、費用はお前の配下のダボスの猿岸田のポケット・マネーから出ることが国会で決議されてゐるから。何度でも交換可能です。但し、お前の生きてゐる限り。長生きしてをくれ。

屁とは何か：

イグノーベル賞受賞者の一覧

1991年医学賞：消化補助剤とガス除去剤の考案。

2001年生物学賞：悪臭のガスが広がる前に除去するために、**交換可能な炭素フィルター**が付いている気密性の下着「アンダー・イーズ」の発明。

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%81>)

オナラと屁の音義の違ひについては、私は本居宣長による日本語の言語理論によつて説明可能なのであるが、この優れたオナラ語義論については、天照大御神さまへ言上申し上げてからと致します。

P.S.

わが生まれ育ちし北海道弁にては、穴を詰めるやうなフィルターをツッペといひます。それ故、炭素フィルターは炭素ツッペである。如何にも穴を詰めるからツッ屁といふ感じがする。

P.S.S.

高天原の品格を私一人で貶めてゐるやな気がするので、以後私に起因して此の地の品位の下落のなきよう相つとめます。勿論、私にはおのづと限界がありますが。



縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く

(37)

5.37 大祓への第一段落第一行には何が書みてあるのか

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかみないのか？

Intermezzo 3-1 伊勢神宮をやまと言葉で読む

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

5.1 6.4-1 八の音義は何を意味するか2

3. 五十音表を記号化する

5.1 6.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

4. 日本人の言語宇宙

5.1 7 いほりとは何か

5. 古事記の宇宙観

5.1 8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてみるか

5.1 高天原とは何か1

5.1 9 クラとは何か

5.2 カミとは何か1

5.2 2 「日本列島位相史」の最新版を

5.3 高天原とは何か2

5.2 3 神武天皇のやまとことばの意味は何か

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.2 4 世界史の中の神武天皇

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.2 5 何故私たちは神前で二礼・二拍手・一礼をするのか？

5.6 天照大神とは何か

5.2 7 カミとは何か2：何故カミはカミと呼ばれるのか？

5.7 月読命とは何か

5.2 8 鹿島神宮とは何か

5.7.1 月とは何か

5.2 9 神道と宗教と哲学の関係は如何なるものか

5.7.2 月読命とは何か

5.3 0 鹿島神宮とは何か2：鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について

5.7.3 月読神社とは何か

5.3 1 高天原とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.3 2 経津主大神とは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.3 3 「天津国津・東西の神宮とカミ・ヌシの関係」表

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.3 4 神宮をやまとことばで読み解く

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.3 5 鹿嶋灘を前にしてある東の一之鳥居の立つ明石が浜に南太平洋から一族・部族を率めて最初に上陸した、その意義では

5.7.8 習合とは何か

(inthissense) 本当のハツクニ・シラス・スメラ・ミコトの本名はなんといふのか

5.8 カタカナとひらかなの関係

5.3 6 鹿嶋・香取の神宮はいつから其処にあるのか？

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてあるのか

5.3 7 大祓への第一段落第一行には何が書みてあるのか

5.9 日本位相習合史

5.3 8 アメの岩屋戸はどこにあるのか

5.1 0 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.3 9 天照大御神が凹に「さし籠もりましき」とある意味

5.1 1 かごめかごめの歌は一体何を歌つてあるのか

5.4 0 アメの安の河と安の河原はどこにあるのか

5.1 2 縄文土偶とは一体何か

5.4 1 アメの安の河原に集ふた神々は何か、どんな神か、そして何故そんなことをするのか

5.1 3 習合といふ漢意をやまとことばで何といふのか

5.4 2 鹿島神宮を初めてお参りした時に八咫鳥の現れた話

5.1 3.1 位相史のための紀元の分類

5.4 3 高天原の生活は如何なるものか

5.1 3.2 淤能基呂島とは何か

5.4 4 日高見国と日向国の関係：三浦一族の活動範囲

5.1 5 縄文土器とは何か

5.4 5 日高見国と播磨国の関係：ダイダラボッチ

5.1 6 大祓へを読み解く

5.4 6 日本とは何か

5.1 6.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.1 6.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.1 6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか

Intermezzo 3 伊勢神宮とは何か

東ドイツ回想記

(5)

何故わたしは東ドイツに行ったのか4

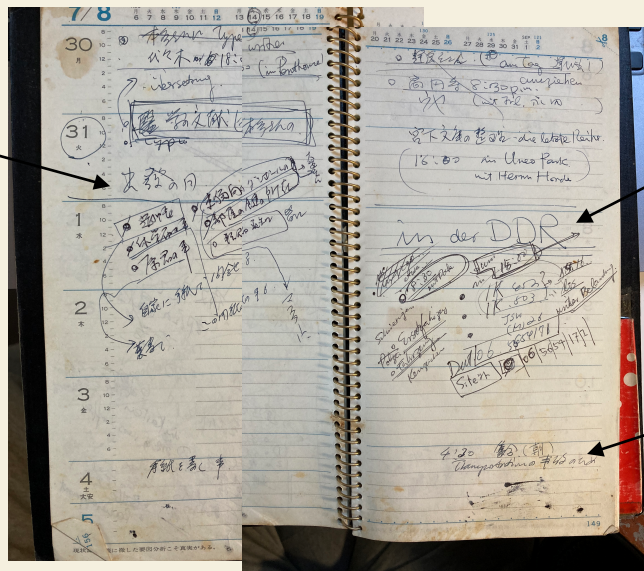
岩田英哉

東ドイツと書いて以来封じた二つの箱の中を少しずつ整理しながら、この回想記を書いてあるわけであるが、



其の中から、足掛け4年のうち残り3年分の手帳ができてて、これの1979年のものを見ると、確かに着任は同年の8月1日であつて、その後のことの記録があるので、少しく語りたい。

日本を出立



東ドイツの正式名称の略号:

DDR/デー・デー・エル
(Deutsche Demokratische Republik)

着任早々二日後にバルト海の大きな港町ローストックで荷積をした大きなタワーが輸送中に落下した事故が起きての会議

私の配属された部署は、輸送課であつた。上司は最前申し上げた西岡さんで40代の半ばといふ感じの年齢であつた。当時は工期の最初期で、2棟のプレハブの建物が並んで工事現場の外に立つてゐた。当時現場にゐる日本人の数を数へた記憶があるが、たつた13人であつた。その内訳は、事務屋、設計屋、輸送課の面々、あと下請けのエンジニアたちといふ顔ぶれであつた。私は幼く

て、誰が何をしてみているのかもよく分からず、わかって、それが何なのかも知らないほど仕事に無知であった。

輸送課は、西岡さんの下に、もみ上げがあつて額のハゲ上がった達磨さんそつくりの片岡さん、三十代初めのメガネを掛けて穏やかさうな、日本に帰つてからも私の決めた下宿と極く近いところに住んでみたせいもあつて私が更に転居するまでは数年親しく行き来をした鈴木さん、二人共にそれぞれ多分別の下請けの会社からの派遣であるといふのは後で段々と私は理解するのであるが、つまりこれは混成部隊なのであるが、私はこのエンジニアリングといふ会社の仕事の仕方を是も段々と理解して、その会社の事業と組織の性格も同様に混成部隊での編成である理由が次第に理解できてゆくのであつた。しかも、東洋エンジニアリング株式会社は東京証券取引所第一部に上場を控へてみて、私は上場後に社員の人たちの興奮の会話から知つた次第であるが、つまり、私は上場前の登り坂の状態の企業と上場後の坂の上に至つた状態の企業の二つを見聞したわけであるが、かういふことが、会社とは何か組織とは何かといふことを考へるには格好の、そして最初の経験であつたといふのは、私には此の問題を考へるための、大袈裟にいへば資本主義と株式会社と社員と呼ばれる人間たちの関係を考へる良い経験なのであつた。輸送課は、そのやうな次第で、このやうな隠れてゐる雰囲気と表の建設工事現場といふ殺気立つた雰囲気の最中（さなか）で、その他には私といふ4人編成であつた。私が初日に輸送課の事務所に入つて挨拶をしようとしてしたのは、西岡さん一人であつたかも知れない。その後すぐに片岡さんが入つて来て椅子に音を立てて身を投げるやうにして座り込み、何か悪態をついて仕事上の難しさを声にならぬ声にしたが、私が其処で着任の挨拶をしても、ああ、とか何とか声が僅かな身振りと共に返つて来たかどうかといふやうな、要するに、現場は既に猛烈に忙しいのであつた。

これは上述の年度の手帳の写しで、これについて少しく話をしてみたいのは、これが普通の日本人が日本にゐては経験できない経験ばかりの記録だからである。私は日本を立つ前に、上の手帳に名前のある本多勝に青山の喫茶店で会つて東ドイツへ行くことを伝へると、君には何故さういつも冒険がやつて来るのかと、驚きと羨望の念を含んだ、つまり讚嘆といふべき言葉を餞（はねむけ）の言葉として贈つてくれたが、その通りで、私も確かに此れは人生の冒険であつて、普通の日本人の生活とはこの先の人生は、たとへ帰国後であらうと、大いに異なつた道を誰にも理解されずに私は一人歩むことになるだらうと思つてゐた其の初日から一週間ほどの間の、これが、その始まりの記録である。本多勝については後述する。

上掲の写真左にある通りに、着任早々に輸送の事故が起き、私は早速現場に向かふことになつた。ローストックといふハンザ同盟の都市の一つである此の港町を遠景にして Deutrans・ドイトランスとのミーティングの多分開催されたホテル・ヴァルノフ前で撮影してもらつた私の写真を掲載します。ドイトランスは東ドイツ国営の輸送会社です。

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房といふ人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。